銀河戦国群雄伝ライ 27

真鍋譲治

Dengeki Comics EX

DE-5-27

発行 メディアワークス

9784840220170

ISBN4-8402-2017-4

C0979 ¥930E

1920979009301

発行●メディアワークス

定価：本体930円 ※消費税が別に加算されます

RAI

BY JOJI MANABE

27

RAI

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

五丈

【竜我雷】 りゅうがらい
大五丈の君主で本編の主人公。一介の雑兵から皇帝まで登り詰めた、正に戦国の風雲児。物事の道理に囚われない清濁併せ呑む英傑である。

【大覚屋師真】 だいがくやしいん
五丈の誇る天才軍師。雷とは刎頸の友であり、その覇業に重きを成す。

【紫紋】 しもん
雷の正妻。父、阿曹主禅を討った雷の許に報償として嫁ぐ。

【麗羅】 れいら
時の権力者、比紀弾正の一人娘。紫紋亡き後、正妻の座を襲う。

【太助】 たすけ
雷を兄と仰ぐ初陣時からの戦友。六紋海で敵艦諸共自爆する。

【雲海入道】 うんかいにゅうどう
太助と同時期に雷と知り合った破戒坊主。各地を共に転戦する。

【孟閣】 もうかく
雷の師団長時の副将。歴戦の強者だが、斉王都にて壮絶に散る。

【三楽斎】 さんらくさい
弁舌と経営の才で雷に仕える能吏派軍人。師真に次ぐ五丈No.2。

【比紀弾正】 ひきだんじょう
雷が最初に仕えた主君。戦乱の中、五丈国を建国する。

【鳳鳴】 ほうめい
五丈四天王と呼ばれる軍閥をまとめる筆頭格。陰険にして狡猾。

【玄偉】 げんい
五丈四天王の一人。実は戦乱の時代に蠢く生き霊の集合体であった。

【狼刃】 ろうは
雷を師団長に抜擢した女将軍。しかし後に刃を交えることになる。

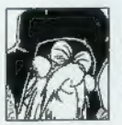
【骸羅】 がいら
弾正亡き後五丈を乗っ取り帝位を僭称し、雷に討たれる。

【骸山】 がいざん
骸羅の次弟。雷の前に立ちはだかるが、旅順沖で戦死。

【骸延】 がいえん
骸羅の末弟で知恵袋。兄の帝位簒奪に暗躍。後、雷に処刑される。

【阿曹主禅】 あそうしゅぜん
紫紋の父で、比紀弾正と対立、その先鋒の雷によって討たれる。

【李張老師】 りちょうろうし
若い頃、弾正の軍師をも勤めた学士。雷の良き相談役である。



【大覚屋英真】 だいがくやえいしん
師真の実の弟。兄に負けない秀才であるが雷の命により殺される。

【大覚屋曹真】 だいがくやそうしん
南京楼の楼商で、師真・英真の父。師真の放蕩ぶりに頭を痛める。

【林則嘉】 りんそくか
師真と双璧を成す軍師。常に雷の近くにあり、的確な助言を与える。

【鐘士元】 しょうしげん
孟閣と共に雷の傘下に入った古参武将。軍師師真と衝突する。

【姚文】 ようぶん
五丈軍の宿将。常に冷静かつ勇猛果敢な戦いを展開する。

【李福】 りふく
雷の師団長時代の参謀。第一次南征で戦死。

【王権】 おうけん
雷の旗艦、金剛の艦長。正宗との戦いで、壮烈な戦死を遂げる。

【項羯】 こうえん
元南京楼付近の海賊の頭領。六紋海の戦いで、囮となり戦死。

【項武】 こうぶ
項羯の息子で剛勇無双の怪力の持ち主。常に五丈軍の先鋒を勤める。

【如晦】 じょかい
雷の求めに応じて幕下に入った賢人。占領した智領を統括する。

【孟起】 もうき
孟閣の息子。五丈軍第二世代を象徴する若き武将。

【呂朱】 りょしゅ
竜王に即位後の雷に仕えた、五丈軍の中堅武将。

【鐘才】 しょうさい
雷の骸羅討伐戦時に駆けつけた、五丈軍の中堅武将。

【装民】 そうみん
五丈軍の造船総監。主に技術方面にて雷を支えた技官。

【装伯】 そうはく
装民の養子であり、彼の死後、造船総監の地位を継ぎ、雷に仕える。

【蘭々】 らんらん
紫紋にお付きの少女。後に林則嘉の妻となる。

【華玉】 かぎょく
蘭々の姉で玄偉の懐刀。敵方であった師真に見初められる。

【梨扁】 りせん
華玉の命で雷暗殺を目論む女忍。やがて雷を愛することになる。

【蒲生】 がもう
狼刃を敬愛する副将。雷との師弟対決となった狼刃を思いやる。

【白鬼】 はくき
狼刃が金州海で雷を迎え撃つために呼び寄せた五虎将の一人。

【王政】 おうせい
五虎将の一人。捕らえられ、後に雷に許される。

【亮厳格】 りょうげんかく
五虎将の一人で、特に勇猛であった。金州海に散る。

【武庸】 ぶよう
五虎将の一人で激戦の後、自ら首を掻き切る。

【魏相如】 ぎしょうじょ
五虎将の一人で、狼刃に従い戦死する。

【呂斎】 りょさい
弾正配下の腹心。彼の死後、後事を託されるが麗羅に殺される。

【翔鶴】 しょうかく
麗羅お付きの側近。骸羅の謀反時に殺される。

【瑞鶴】 ずいかく
同じく麗羅の側近。彼女の手足となり暗躍するが……。

【朱金将】 しゅきんしょう
雷が南京楼に赴任した時の太守。腐敗した役人で雷に斬られる。

【馬元宇】 ばげんう
骸羅配下で、要衝旅順の指揮官。師真の火攻めに破れる。

【武侯国】 ぶこうこく
骸延によって雷討伐に派遣される武将。敢闘するも敢えなく破れる。

【陳承】 ちんしょう
時の承相骸延失脚に師真に利用される。後に骸羅によって刑死。

【公叔】 こうしゅく
如晦らと共に雷に仕えた賢人だが、自らの野心で雷に背く。

【秦公旦】 しんこうたん
西光王秦宮括の末弟で、雷に請われ五丈の傘下に入る。

【楊尚香】 ようしょうか
雷の龍姫。その勝ち気な気性で、やがて正妻龍羅との摩擦を生む。

【梵天丸】 ぼんてんまる
龍羅が産んだ雷の嫡男。後の二世皇帝。

【松寿丸】 しょうじゅまる
楊尚香が産んだ雷の次男。雷即位後、後継争いに巻き込まれる。

【王福来】 おうふくらい
雷が竜王即位後に設けた後宮の一切を取り仕切る官官の長。

【鄭衆】 ていしゅう
武王都の太守。秦宮括の謀反の折には降伏を拒否し、街を守り抜く。

【晏石】 あんせき
一衛士からその才を雷に認められ、五丈の財政を預かることになる。

【傅格】 ふかく
五丈の敏腕外交官。敵の寝返りあるところに常に彼の姿が。

南天

【羅候】 らこう
父羅鶴の死後、練の兵権を引き継ぎ、正宗の傘下から独立。やがて姜子昌らの働きもあり、正宗を圧倒して南天の盟主となる。雷の最大のライバル。

【羅連】 らかく
羅候の父。弾正南征の折、南天連合の一雄として戦うも、討ち死に。

【姜子昌】 きょうしし
南天の大将軍。師真と激しいつばぜり合いを展開する。

【師尼】 ていに
南天の若き武将。姜子昌を助け、戦場を駆け巡った。

【尭興】 えんこう
姜子昌亡き後、羅候の側近に取り立てられ、最終決戦で指揮を執る。

【呂峻】 りょしゅん
羅候の正妻。相当のじゃじゃ馬だが、紫紋等とも交流があった。

【夏候猷】 かこうしゅう
南天の重鎮。老いて益々盛んな老将。六紋海で羅候の盾となり戦死。

【夏候才】 かこうさい
夏候猷の息子で、南天軍の先鋒を任される勇将。六紋海で戦死。

【夏候牙】 かこうが
夏候才の兄。羅候の王位に反対し、謀反を起こした後に自害。

【龍緒】 りゅうしょ
二代に渡って仕える南天の宰相。羅候に疎まれ、官を辞す。

【神楽】 かぐら
白象戦車隊を率いる南天の女将。後に項武の妻となる。

【胡雷】 こらい
身の丈二メートル以上ある巨漢。その剛勇を買われ先鋒を勤める。

【単于】 ぜんう
胡雷、夏候才と共に五丈への侵攻時の先鋒を勤める。

【牙双邪】 がそうじゃ
南天軍の背骨と呼ばれる中軍を率いる撫軍将軍。

【火徳星】 かとくせい
同じく中軍に配される虎我将軍。太助に艦を破壊されてしまう。

【牛魔王】 ぎゅうまおう
同じく中軍に配される輔国将軍。五丈南征時に国境を守備する。

【猴陽骨】 こうようこつ
同じく中軍に配される冠軍将軍。中軍壊滅と共に戦死する。

【金角】 きんかく
南天の鎮護将軍。後に五丈の誘いを受け、弟銀角と共に降る。

【銀角】 ぎんかく
南天の討逆将軍。兄と共に五丈に降るが、最終決戦で討ち死に。

【魚鳥目】 ぎょちょうもく
南天の参謀。羅候を強く戒めたために謀反の疑いを掛けられる。

【羅真義】 らしんぎ
羅一族の若き武将で五丈の南征時に捕虜となる。

【羅華波】 らばしゃ
羅一族の長老。羅候の檄に呼応し、一族郎党を連れて参陣する。

【麟】 りん
龍緒の孫娘。龍緒の命を受け、和平交渉に来た英真を警護する。

【綺麗】 きら
羅候の妹。五丈との和睦の際、雷の許に送られる。

智

【独眼竜正宗】 どくがんりゅうまさむね
智の国、事実上の君主。女ながらその強力な指導力と軍事的センスにより、天下人に最も近い人物と言われた。しかしその正宗も病には勝てなかった。

【飛竜】 ひりゅう
正宗の右腕で知勇に秀でた女将。姜子昌とは因縁が深い。

【虎丸】 とらまる
正宗の弟で後の智王。しかしその意志は弱く、国を滅ぼしてしまう。

【儒李】 じゅり
先代より智に仕える重臣で、正宗の良き理解者。

【王華】 おうか
要衝座王都の攻防戦で、狼刃に敗れ去る守備隊指揮官。

【武尊】 ぶそん
座王都都督。初陣の雷の猛攻の前に敢えなく敗れ去る。

【丁儀】 ていぎ
正宗の叔父。羅候に通じ、権力を得るため智王を幽閉する。

【斉遠】 さいえん
智の猛将。南天連合から離反した羅候を迎撃するも討ち死に。

【趙晋】 ちょうふ
正宗が病に倒れた後、兵権を引き継ぐが五丈に完敗する。

【扶華】
智王の典医で近臣でもある。後に飛竜の刃に倒れた雷をも治療する。

【紅孩士】
正宗亡き後の智政権に潜む、獅子身中の虫。雷によって誅殺される。

【彩】
紅孩士の養女で智王の寵姫。遊び暮らすが、刑場の露と消える。

その他

【馴志】
孟国国主。南天連合の一角を占める。

【曹州】
趙国国主。弾止の南征時に髄羅軍と激突し戦死。

【雷神】
明国国主で南天の盟主を自認し、正宗と対立。

【三桑】
先の王朝の公家の残党を率い、五丈に対して反乱を起こす。

【法権】
三桑の反乱に呼応した武将。奇襲を掛けた雷に討ち取られる。

【琉璃麗洲】
南蛮王。羅鶴とは盟友であり、死後、羅候に王位を譲る決意をする。

【秦鷹】
西羌王。玄偉に唆され、五丈の内乱に干渉、兵を挙げるも完敗。

【秦起】
秦鳳の弟で、五丈と内通し、甥秦宮括を売り渡す。

【秦宮括】
西羌国の若き王。父を討たれた恨みを捨て、雷の同盟者になるが…。

【秦走架】
秦宮括の弟。母皇太后の命により、渋る兄を謀反の道に駆り立てる。

【秦横車】
秦宮括の末弟。兄と共に謀反を起こすが、兄弟揃って雷に討たれる。

【皇太后】
西羌皇太后。五丈と組みするを良しとせず、南天に急速に接近する。

【軒臼】
邑峻の弟で、南蛮を治める王。軟弱な性格故、羅候に滅ぼされる。

【軒如】
共同統治により、南蛮を治める兄弟の一人。

【慶克】
同じく南蛮兄弟王の一人。邑峻の末弟。

【勃纏】
南蛮国に派遣された羅候の重臣で、五丈が目を付けた南天の内通者。

【黄獅】
雷により、南蛮を治めるように命じられた部族長の一人。虎力王。

【鹿昂】
同じく南蛮部族長の一人。西海竜王。

【四木金星】
黄獅、鷹昂と共に南蛮を治める事になる部族長。紅孩王。

むっ？
あの逃げ散って行く敵先鋒軍の様子…
いつの間にか隊列を整えておる…!!
殿!!
追撃を中止なされませ！
何いっ!?
バカいってんじゃねえ！これからだぞ!!
あれをご覧あれ!!
敵は整然と逃げております これは偽りの逃走ですぞ!!
!!

……
敵には小ずるい軍師がついております ここは陣形を整え様子を窺うべきでございます
ちっ！わかった好きにしろ！
殿にお飲みものを！
ささっ殿！
まだ戦は始まったばかりですし
全軍に停止命令を出せ！
物見を四方に放って敵状を探れ!!
はい羅候
邑峻！
せがれ達と一緒に南蛮王都に残っていろといったのについて来やがって…!!

焦っちゃだめよ 羅候
ぶっ…!!
そんな風に見えるか?
羅候はすぐに顔に出るから
姜子昌と同じようなことをいうな!
ねえ羅候
あなたの姜子昌の仇を討ちたいという気持ちよくわかるけど今は天下を懸けての竜王との決戦よ
あれこれ考えずに堂々と五丈軍を討ち破ればいいじゃない

そうだな… おまえのいう通りだ 焦って易々と敵の奸計にはまってたまるか!!
あら
今日はずいぶん素直ね♪
素直じゃ悪いか!!!
申し上げます! 敵の第二陣現れました!!
見てろ! 堂々と敵を討ち破ってやる!!
数はおよそ二個軍団!!
何だそりゃえらく少ないな遊軍か?
いや…しかし敵陣の中央をご覧下され!!

中央を？
あれは…
真紅の戦艦…
あれは…
竜我の旗艦…
金剛か!!!
わっわっ
竜王様
あの大きなのは
何ですか!?
さあな
まあ十中八九
あれに羅候が
座乗しているんだろう
それにしても
バカでかいものを…

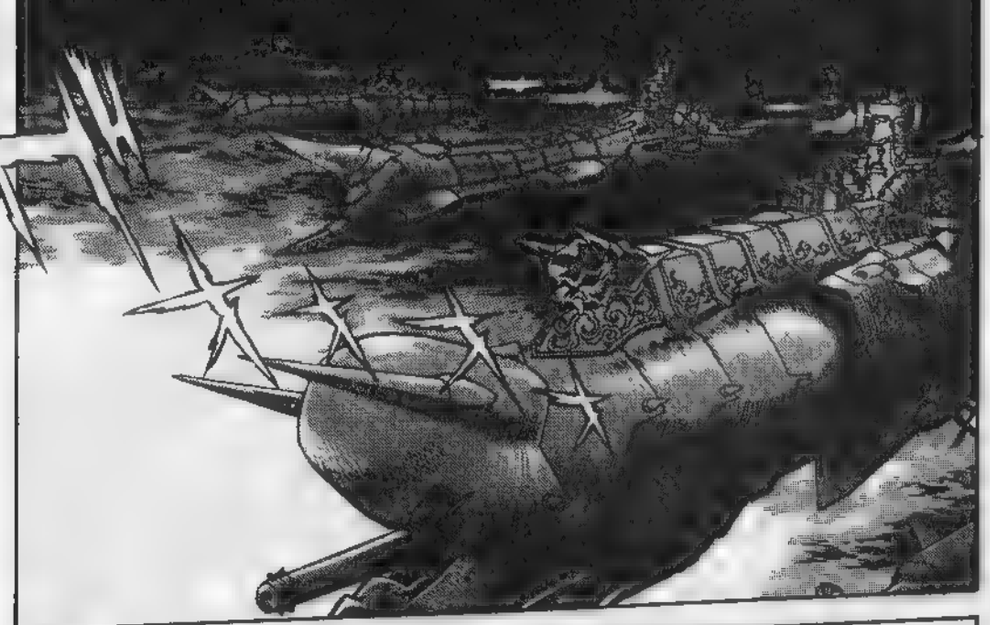
あのバケモノに関しての情報は？
それが全く皆無でして…申し訳ございません
あんなバカでかいものの情報が無いというのか？
いえ 確かに工夫の大量移動は把握していましたが規模から見て城郭か要塞の建造かと…
陛下！聞くところによりますと南蛮人は先祖を祭るために浮遊城を造ると聞いております
権力者であればあるほどそれは富と権力の象徴として巨大で豪勢を極めるものとか…
あれはその類いではございませぬか
恐らく南天王が天下を取るのを前提に以前より建造してたものでしょう
先祖を祭るか…要は巨大な陵墓だな

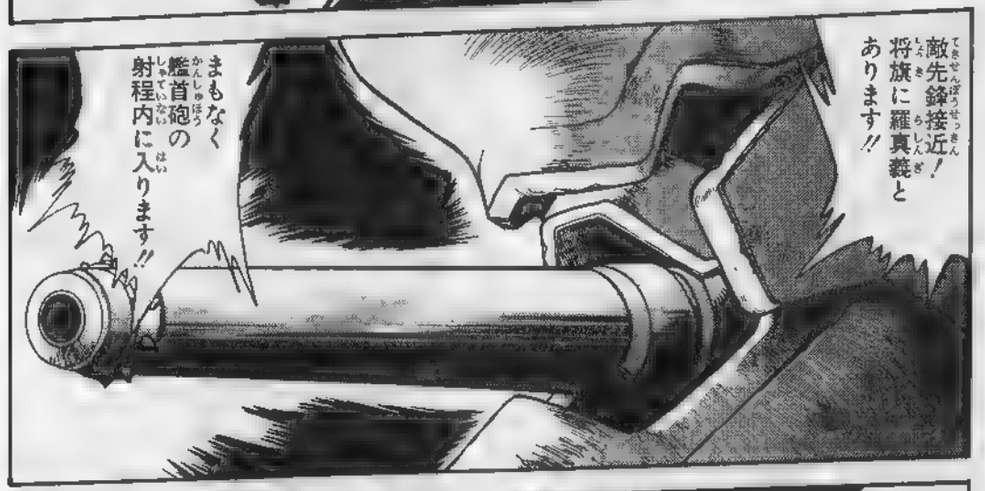
その墓にまで武装するところが南天人らしいところだが
せいぜい自分の墓にならんようにつとめるんだな羅候…!!
艦首砲で一撃かけてずらかるぞ!!
はっ！
わくわく
いよいよ戦が始まるんですよね竜王様
尚香！
…ったく最後の後送の便まで断って…頑固なやつだな！
だって～どうしても竜王様の戦場でのお姿拝見したくて～
怒ってます？
いやここに至ってはその目でよく見届けるがいいさ戦というものをな！

戦とは
どんなものか
天下取りに
どれだけの
犠牲を強いるか…！
華々しい戦果の裏の
阿鼻叫喚の
地獄絵図が
どういうものか
おまえも
いつか俺の子の
母親になろう
自分の子に
自分の見たものを
伝えてやるんだ
竜王旗艦を含む
五丈軍前進して来ます！
ふん!!
今回は
いつもとは違い
早めのお出ましだな
竜我!!
そんなに俺と
手合わせしたいか!!
いいだろう!!

羅真義将軍が
攻撃許可を
願っています!!
よし！
かまわん
存分に戦え!!
耳をそがれた
恨みを
はらして来い！
そして俺の前に
竜我を引きずり
出して来るのだ!!
全軍前進!!
各個 砲撃態勢を
取れ!!

うてえっ!!




敵先鋒接近!
将旗に羅真巍とあります!!
まもなく艦首砲の射程内に入ります!!

最大装薬でぶっ放せ!
はい!
発砲諸元算定完了!
いつでもどうぞ!!

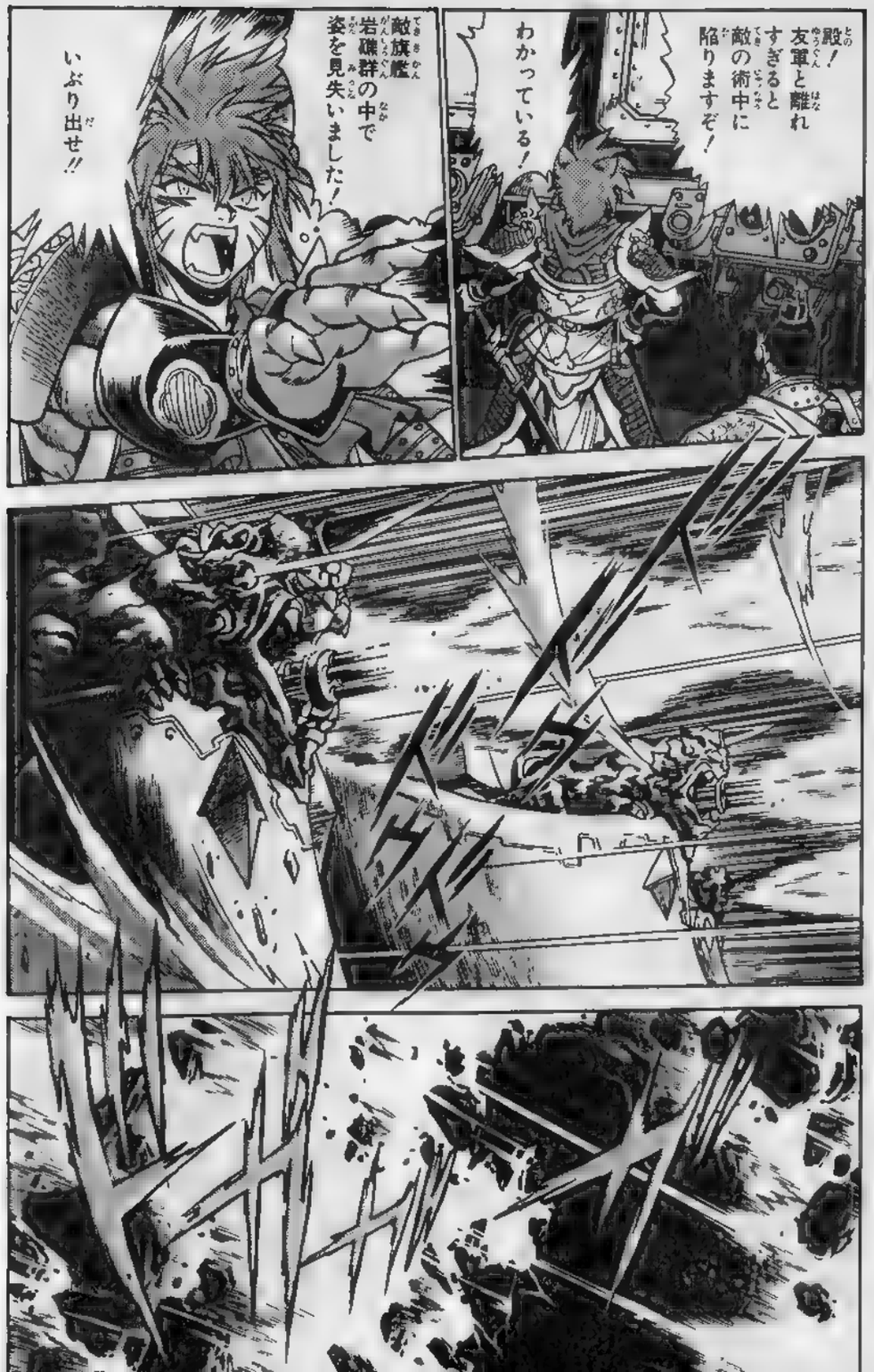
うおっ!!
おのれ——っ!!
全軍
突撃——っ!!
来るぞ!!
回頭反転!!
左エンジン停止!
右エンジン全開!!
後は頼んだぞ
雲海!!
おう!!
敵旗艦
反転します!!
逃がすな
撃ち方
はじめ——っ!!
えええい
防げ
防げ!!
我々が壁となって
防ぐのだ!!

ここを通すな!!
ええいうっとおしい!蹴散らせ!!
ぬううっ!!
おのれ邪魔だてするか!!

さあ
追って来い
羅候!!
羅真義
何を手間取っている!!
竜我が逃げるぞ!!!
俺達も追うぞ!!

そこを
どけ!
竜我は
俺がやる!!
は…はは…っ!!
親衛隊
俺に続け!!
羅候は
自分配下の
親衛軍団を率い
近衛軍に足止めを
食っている羅真義軍を
追い越し金剛に迫った
一方金剛は
羅候をまくかの如く
岩礁群に
入り込んだ

きゃあああっ!!


殿!
友軍と離れすぎると敵の術中に陥りますぞ!
わかっている!
敵旗艦岩礁群の中で姿を見失いました!
いぶり出せ!!

ちょっと——
当たんないわよ!!
ええい
ちょこまかと…!!
!!
ズガガガ

岩礁群内を
しらみつぶしに
砲火を浴びせる
羅候だが
機関銃で、ハエを
撃つかのように
金剛の軽快な
機動力を前に、
どうしても致命打を
与えられなかった!!

敵の一隊が
押し出して
来ました！
よし
増速だ
一旦振り切れ！
金剛の足を
止めろ!!
!!
なめた
真似を!!

ゴオオオ
くそっ
だめだ！
我々の艦では
追いつかぬ！
ゴゴゴゴゴゴ
何だってんだ
くそっ!!

ケッ 面白くねえ!!
竜我のやつ 逃げ回りやがって!!
殿!
何やつだ!?
殿! 新手です!
竜王は 機神の姿を見て 肝を つぶしたのでございましょう
近衛軍を 討ち破った 他の軍団主力も 追いついて参ります ここは ご自重 なさりませ!
ちっ!
南天王よ!
そなたはすでに 我が計に 落ちておるのだ! じたばたせずに 早々に降伏 なされ!!
な…っ!?
何を ぬけぬけと!
つまらん小細工しか 出来んくせに えらそうなこと いうな!
一度でもいいから 俺と刃を 交えてみろ! この腐れ儒者!!
旗印に 五丈大軍師 大覚屋師真と あります!
あの ペテン師野郎か!

はっはっは
無駄なこと
無駄なこと
そなたの刃など
我が知謀に
比べれば
ナマクラ同然！
いわしておけば
好き勝手なことを
ほざきおって～～～!!
踏みつぶして
その首引っこ抜いて
釜ん中で
煮てくれるわ!!
それは
楽しみなこと…
それでは
それがし
ここらで
おいとまいたす！
敵
反転します!!
ぬうう
どいつもこいつも
ひきょう者ぞろいか
五丈は!!

追え!!
あんなペテン野郎に
笑われてたまるか！
南天武人の
恐ろしさを
わからせてやる!!
敵軍は
密雲の中に
隠れました!!
全弾
ぶち込んでやれ!!

南天軍は怒りを込めて、師真の逃げ込んだ密雲に弾幕を張った
たちまち密雲は林立する火柱に覆われた
だがすでに師真は高速で密雲の向こう側に抜け出していたのだった

それにしても
すさまじい
火力ですな
雲全体が
燃え立つようです

やがて
この火力と
まともに
ぶつかることに
なる

我々は
艦の半数を
失うことになろう

ぐ…軍師様！
半数って…そんな…〃

半数を失うが
敵を皆沈めれば
我々の大勝利
だからな

どんなに
色々と仕込んでは
みても
いざ戦いが始まると
勝負は五分五分

それを何とか
六分四分にしようと
知恵を絞るわけだ

つまり四度負けても
六度勝てばいいのだ

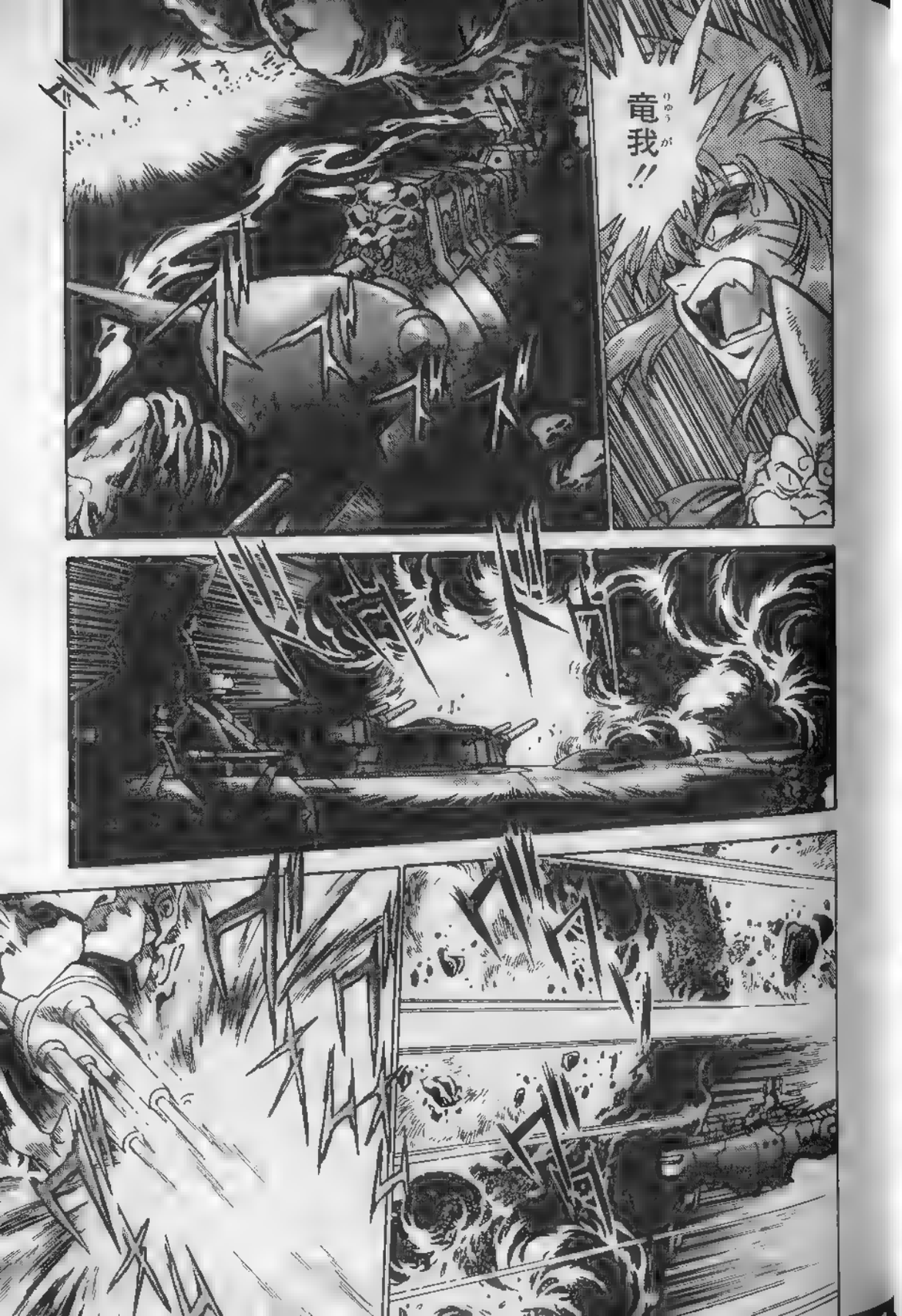
常に先に勝ちを
拾っていかないと
つらいがな

南天連合は
すでに崩壊し
この南征の第一目標は
達成している

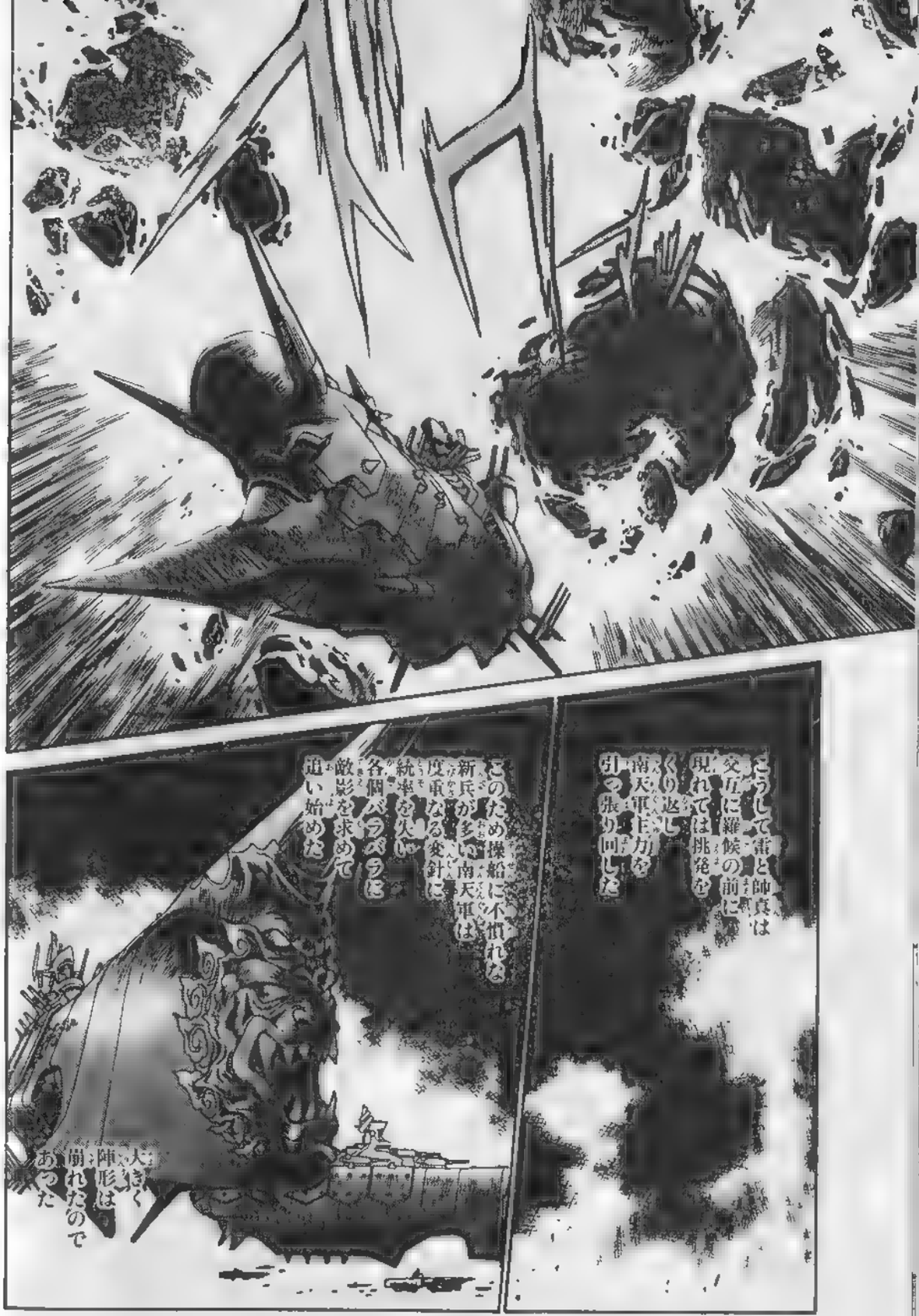
次は
今後再び南天に
強力な中央集権国家が
現れぬよう
その芽を完全に
つむことだ

南天軍
雲の中を
押し渡って参ります！

ゴゴゴ

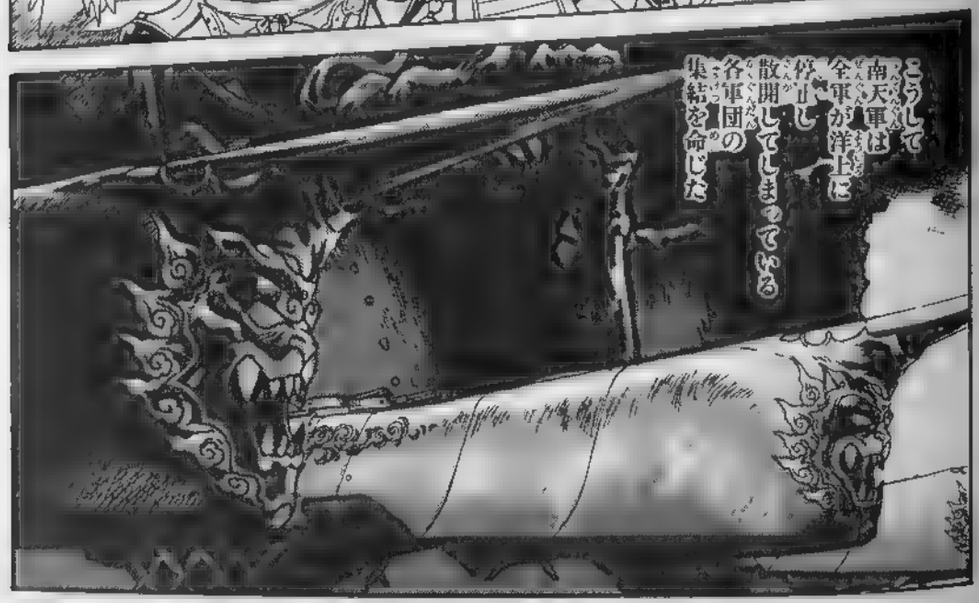

竜我!!

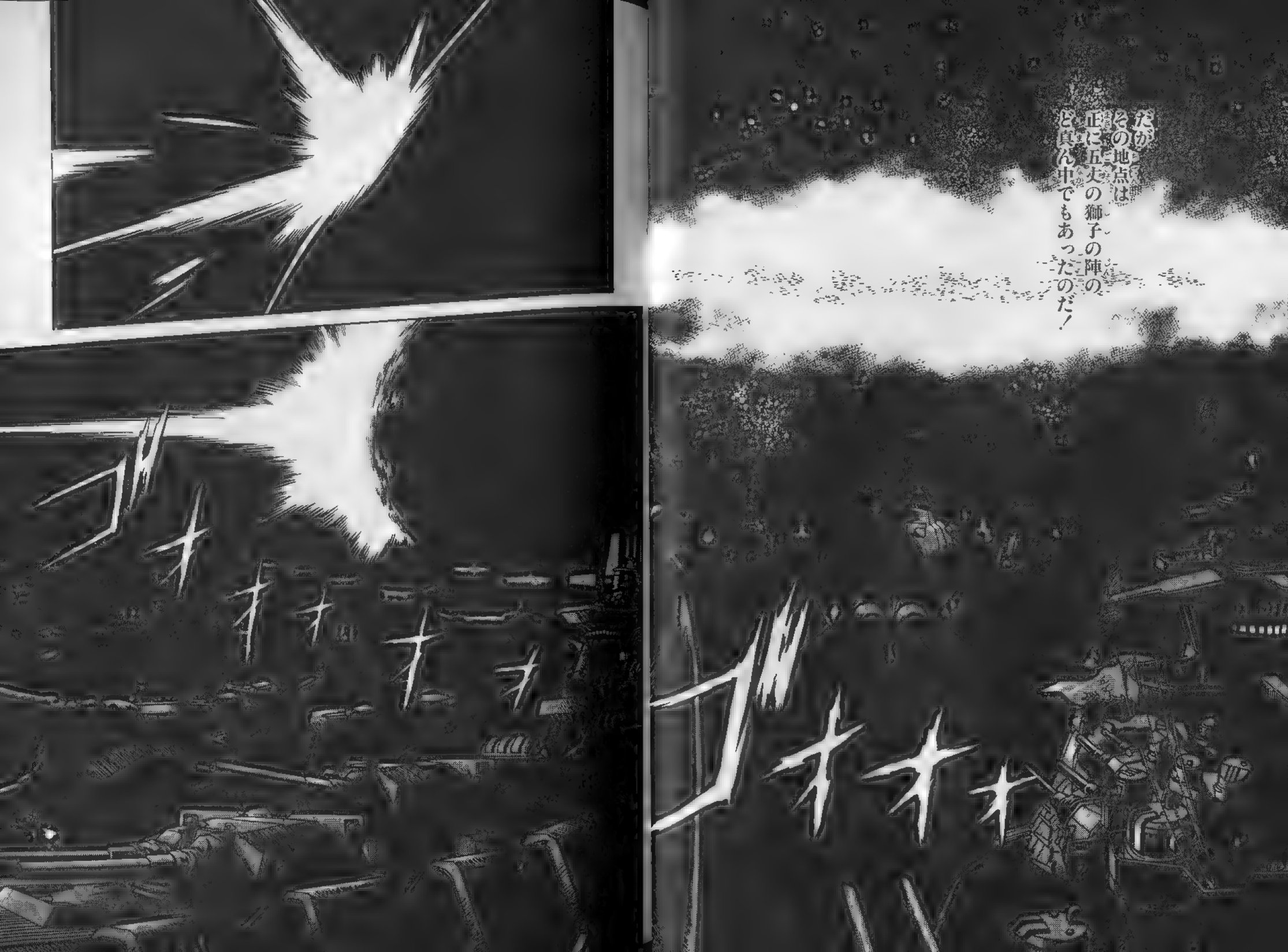
いたぞ!
あそこだ!!
逃がすな!!
何いっ!!

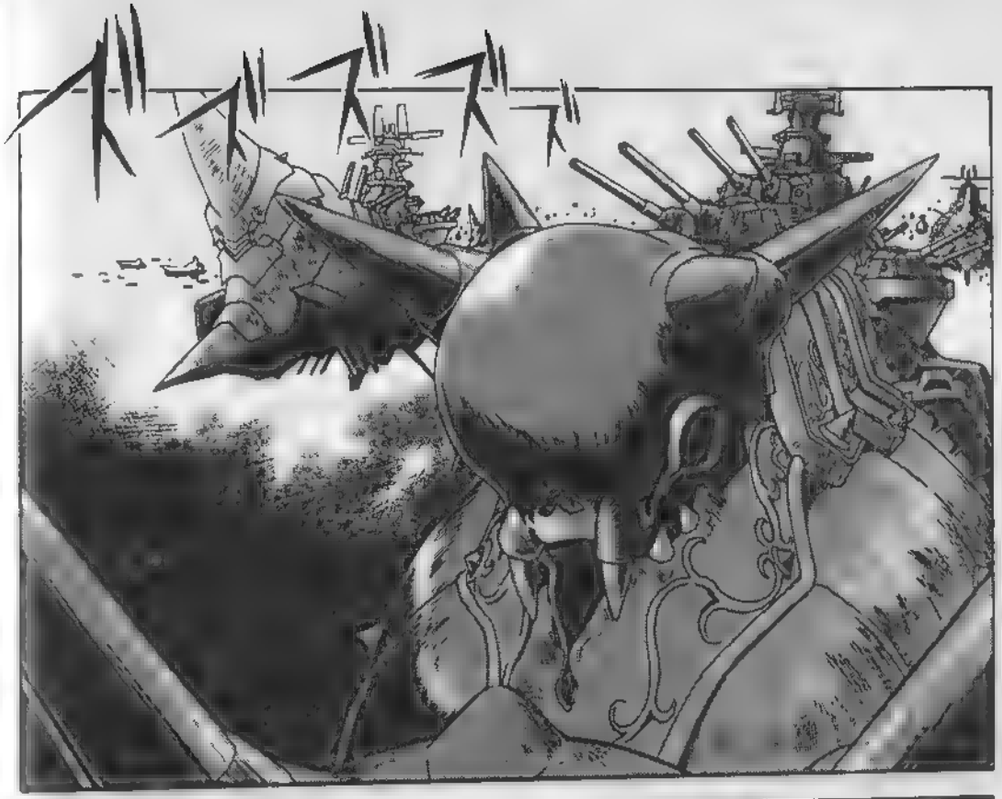

こうして 雷と帥真は
交互に 羅候の前に
現れては 挑発を
くり返し
南天軍主力を
引っ張り回した
このため 操船に不慣れな
新兵が多い 南天軍は
度重なる 変針に
統率を失い
各個バラバラに
敵影を求めて
追い始めた
大きく
陣形は
崩れたので
あった

カツ
カツ
殿！
陣形が大きく
崩れています
追撃を中止し
態勢を
固め直しましょう
放っておけ！
ついて来れない
やつらなんぞ
役に立つか〃

そうは申されましても
これでは
戦になりませぬ
何とぞ…!!
羅候！
あ――
わかった
わかった！


こうして
南天軍は
全軍が洋上に
停止し
散開してしまっている
各軍団の
集結を命じた


ゴオオオオ
ゴオオオオ
だがその地点は正に五丈の獅子の陣のど真ん中でもあったのだ！


ズズズズズ

敵はこちらの思惑通りに獅子の陣のど真ん中に陣を張っているな
御意
しかも陣形は乱れ備えも薄いと見受けられます
〝時〟が参りました!

いいか?
ご随意に…!!

皆の者!
いよいよ羅候との雌雄を決する時が来た!!
必ずや羅候を討ち全銀河に覇を打ち立てるのだ!
見事手柄を立てその名を末代まで残せ!!

陣太鼓を打ち鳴らせ!!
突撃だ!!

北より
直武軍
東より
孟起軍
西より
元軍
陣太鼓の
突撃の合図と共に
五丈軍は
津波の如く
南天軍に襲いかかった

南西より
兄金角の仇に
燃える銀角軍が

そして
第一陣を突破された
南蛮二王の軍が
大きく迂回して
南天軍の背後から
迫った

北東より
姚文軍
北西より
奈公昌軍
南東より
呂宋軍

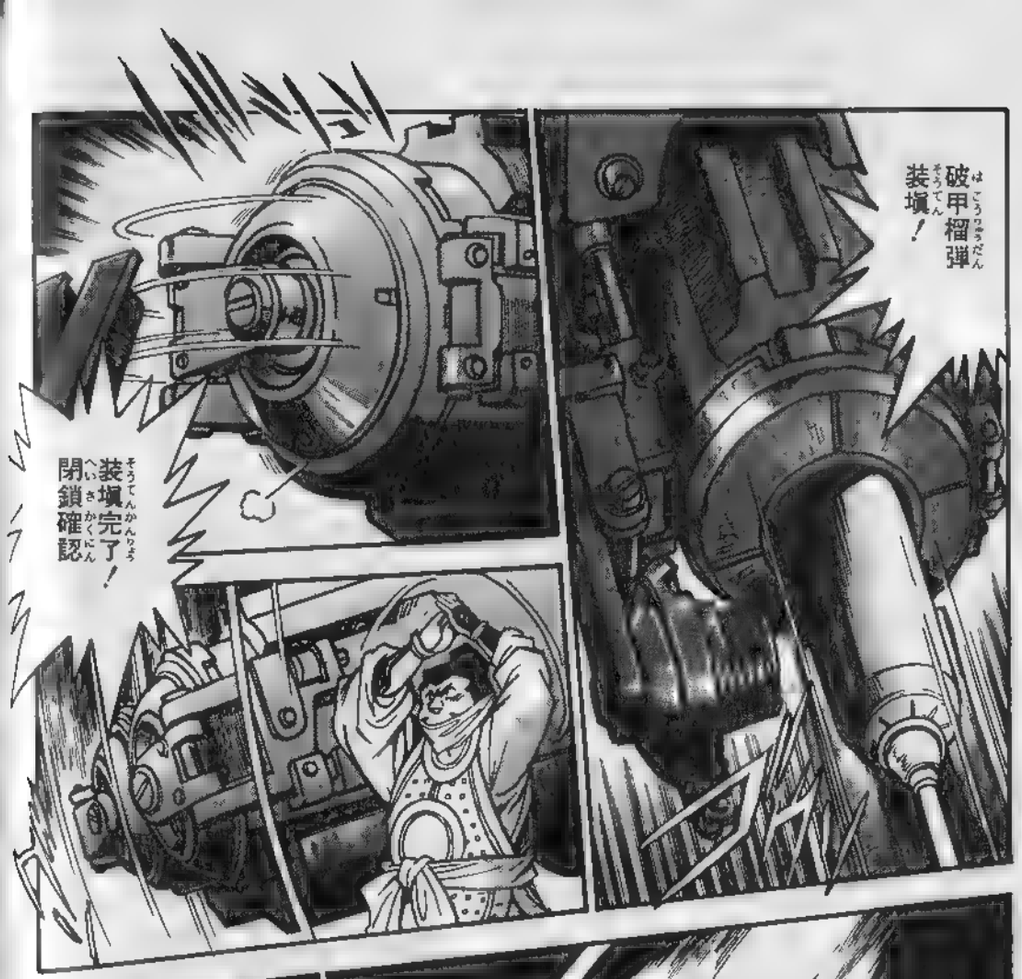
一方 羅陵が
自分の軍が
五丈軍の包囲陣の中に
あることを知ったのと
五丈軍の突撃が
始まったのと
ほぼ同時であった
ゴオオオ
ご…
五丈軍です!!
四方を
包囲されています!
来る!
突っ込んで来る!!
五丈の
本隊か!?
陣形を
整えよ!
迎撃準備!!
殿!!
何だ
うるさいぞ!
酒も
飲めん!

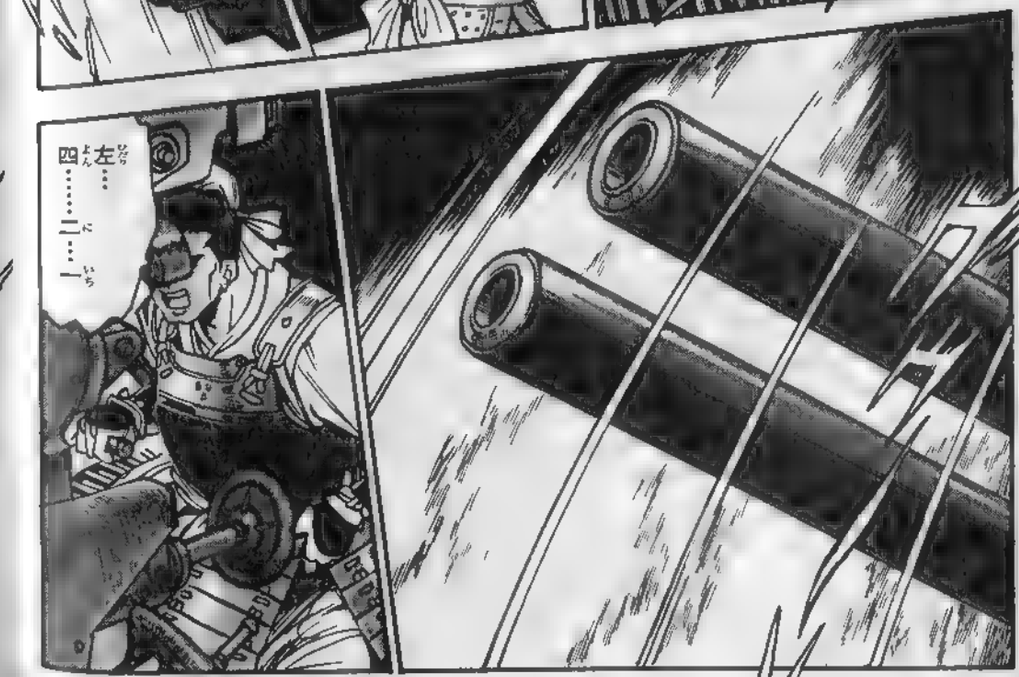
しかし
敵本隊に
包囲されております!
退路も断たれて
いる由にて…
退路だとぉ!!
あ… いえ…
我が軍が
退くことなど
ありません!!
そうだろう!
なら
オタオタするな!!
姜子昌なら
この程度のことで
うろたえはせんぞ!!
は…
はは…
はっ!
申し訳
ありません…!
包囲が
何だってんだ!
全軍に
伝えろ!!
捜す手間が
省けただけだ!
返り討ちに
してやる!!

敵軍
出陣して来ます!!
射距離六千で
射撃開始!!
斉射三連!!

五丈軍を
皆殺しだ!!
一兵たりとも
生かして
帰すな!!

撃てぇ――っ!!


破甲榴弾
装填!
装填完了!
閉鎖確認


左…
四……二……一

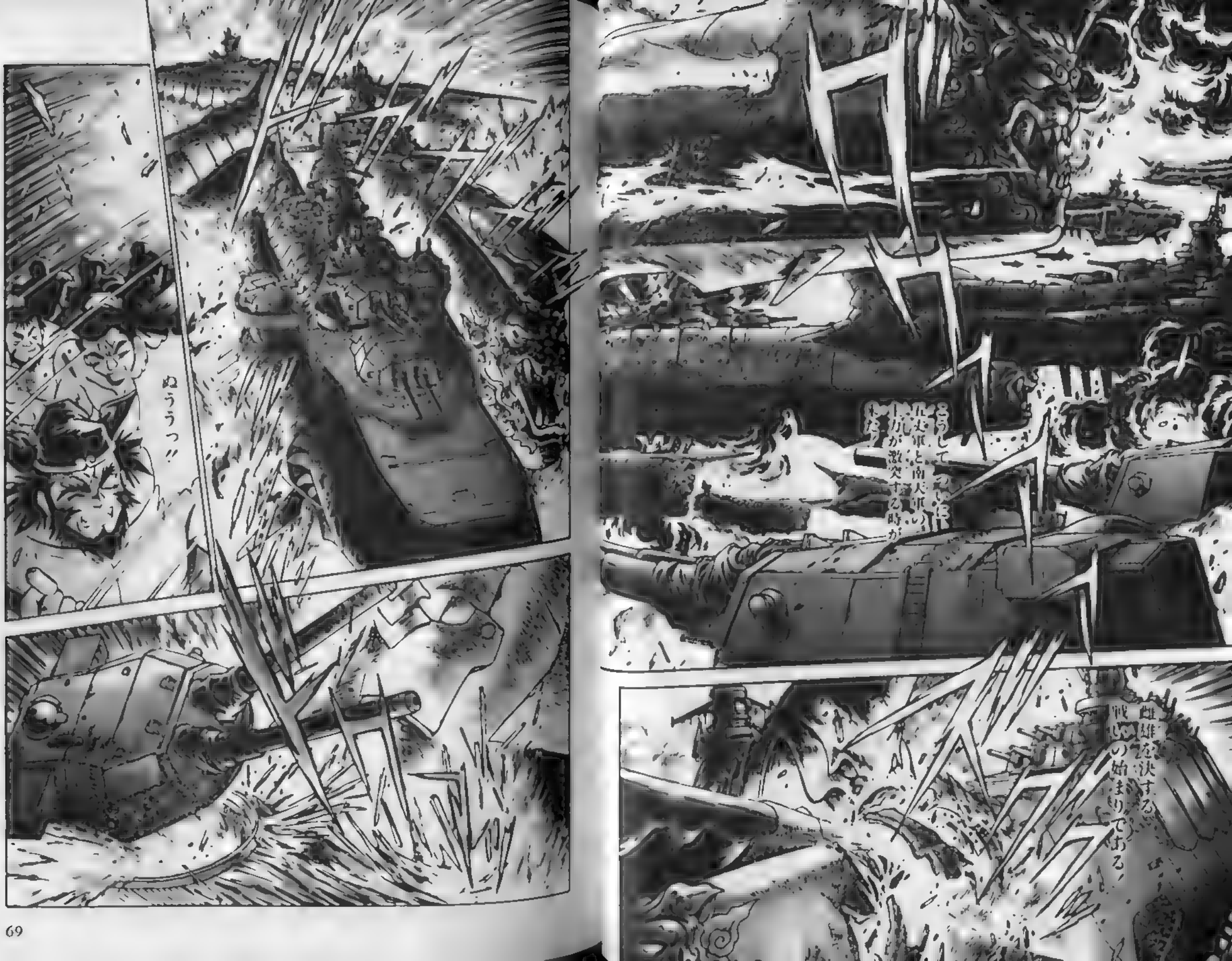
うわあっ!!
ぎゃあっ!!

何をしている
応射しろ!!
だが大きく
陣形を崩していた
南天軍の応射は
とても統一指揮下の
射撃とはいえず
各個バラバラに
射撃を始めた
五丈軍は
その弾幕を
ものともせずに
しゃにむに突っ込んで行く

おう!
おまえら
どうした!
鎧兜を
脱ぎ捨てよ!
へへっ
こんな重い物を
付けてたら
動きにくくて
しょうがねえっすよ!
そうそう
今度こそ
首の十や二十
挙げなきゃな!

ふ…!
おまえら…
ようし!
野郎共!!
抜き身だけ
持って
集まれ!!

手柄を立てて
大将と共に
勝利の美酒に
ありつくんだぜ!!
いいな!!


ぬううっ!!
ついに
五丈軍と南天軍の
十万が激突する時がきた!
雌雄を決する
戦いの始まりである!

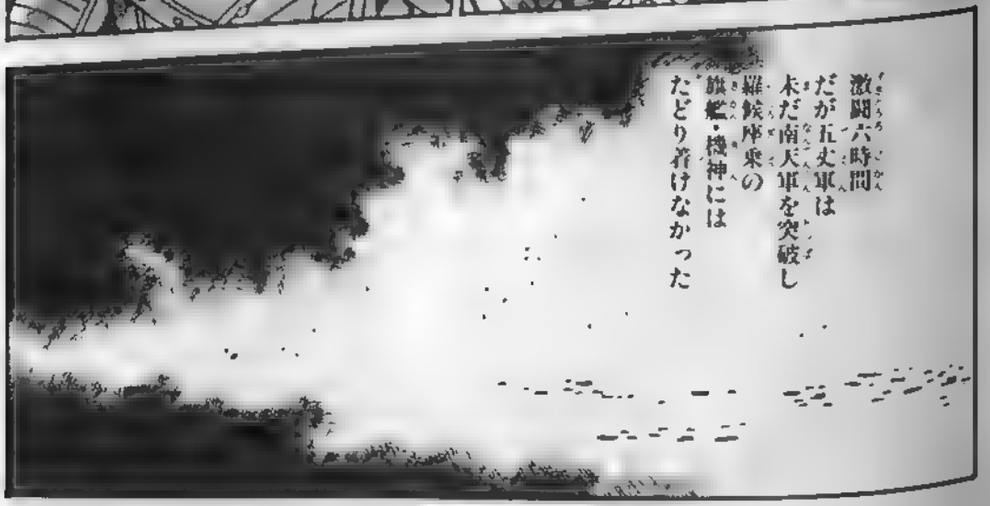
突撃だ――っ!!

おらおらどけい雑魚共!!
羅候を出しやがれ――っ!!

正面の源氏軍の
激突を皮切りに
東西南北全方面で
両軍主力が激突した

両軍は
しばらくの間は
互角の戦いだった
いや
どちらかというと
包囲されていたはずの
南天軍の善戦が
目立った

それは
五丈軍が
精兵ではあったが
兵力は通常の
半数以下であり
かたや南天軍は
寄せ集めとはいえ
数は圧倒的に
多かったからである


激闘六時間
だが五丈軍は
未だ南天軍を突破し
羅刹座衆の
旗艦・機神には
たどり着けなかった

ドドド

ひいいっ!!
改帝虎級戦艦を四方に展開させろ!
それでは味方も袋のネズミですぞ!!
五丈のやつらを完全に包囲してやるんだ!!
げえっ!!
兵などいくらでも集まる味方の犠牲にかまっていられるか!
兇興! 今は決戦だぞ!

すさまじい巨弾の雨が
両軍の頭上に
降り注いだ
これには五丈軍の猛者も
なすすべもなく
この地獄の業火に
耐え忍ぶのみであった

最前線は
降り注ぐ巨弾のために
地獄絵図と化したが
ここで羅候も
予想しなかった
事態が起き
状況が一変した!!

戦の勝敗は
いかに味方を
眉一つ動かさず
死地に送り込めるか
どうかにかかっている

この点では
味方を吹き飛ばす
羅候とて
変わりはない

だが将兵に
自らの役割を
信じ込ませること…

犬死にとは
思わせないことが
戦いの帰趨を
握ることになる

見ろ！
やつらの砲撃で
敵も乱れているぞ！
陣形が
崩れた!!

いいか
この状況を
打開するには
敵旗艦に
食らいつくしかない！

行けえっ!!

五丈軍の戦艦は
次々と砲撃の生じた
前線の突破を
図った

同じ混乱状態では
あっても
右往左往するのみの
南天軍に比べて
ここで兵の精強さが
物をいったのだ

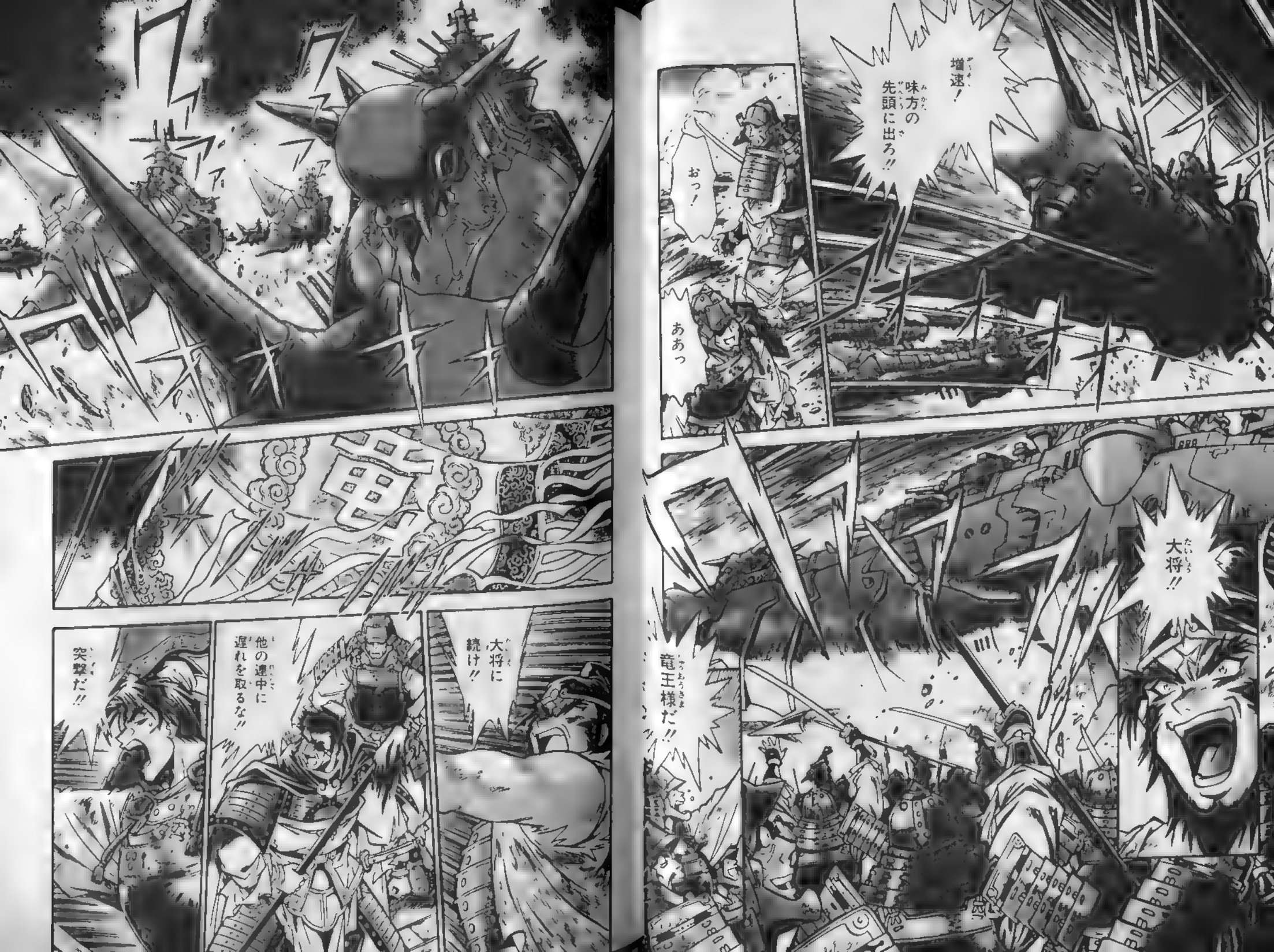
一方後方で
この動きを察知した
雷は…

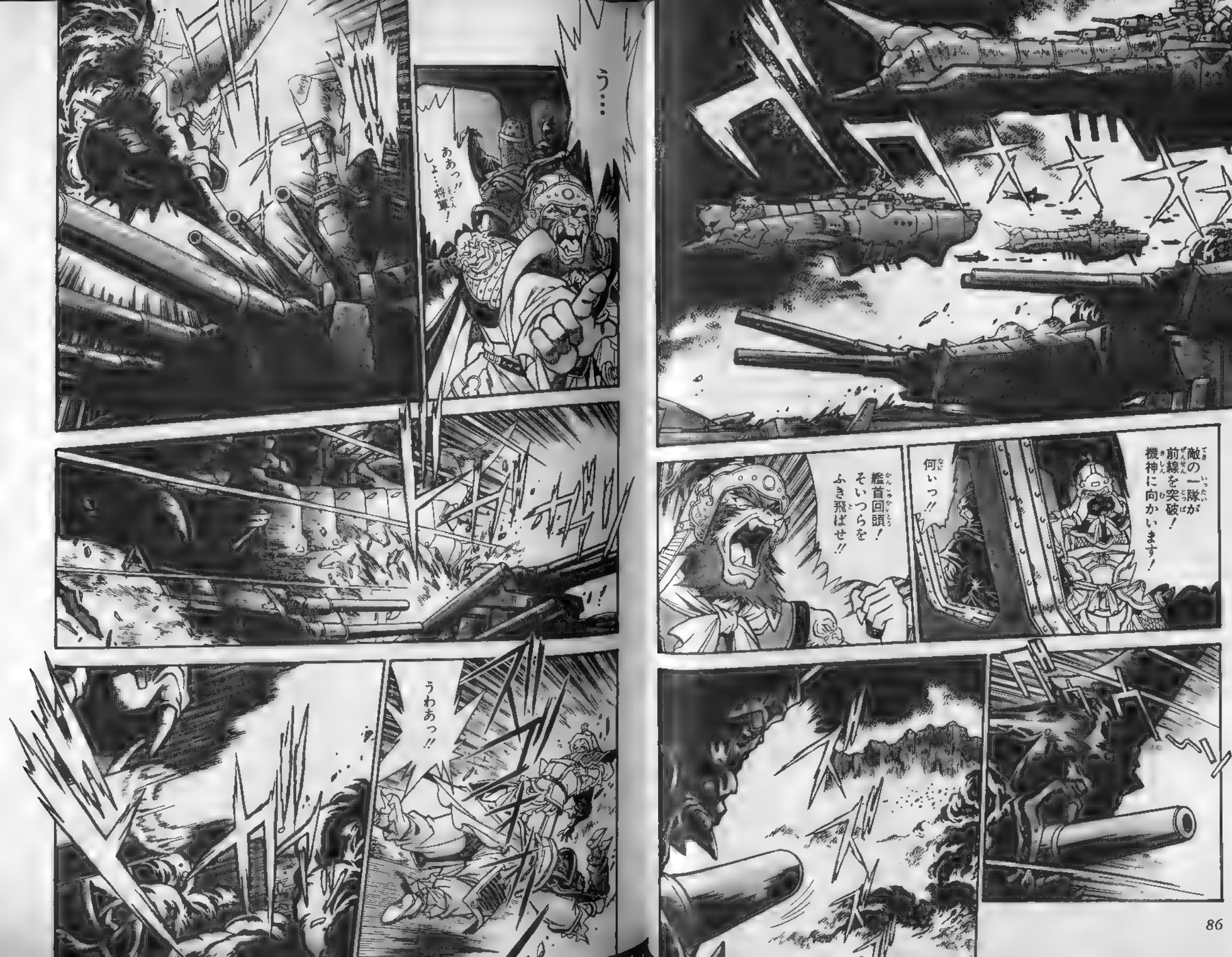
金剛を
進めろ!!

陛下
危険です!!

百も承知！

相手が羅候なら
危険などとは
いってられん!!


増速！
味方の先頭に出ろ!!
おっ！
ああっ
大将!!
竜王様だ!!
大将に続け!!
他の連中に遅れを取るな!!
突撃だ!!

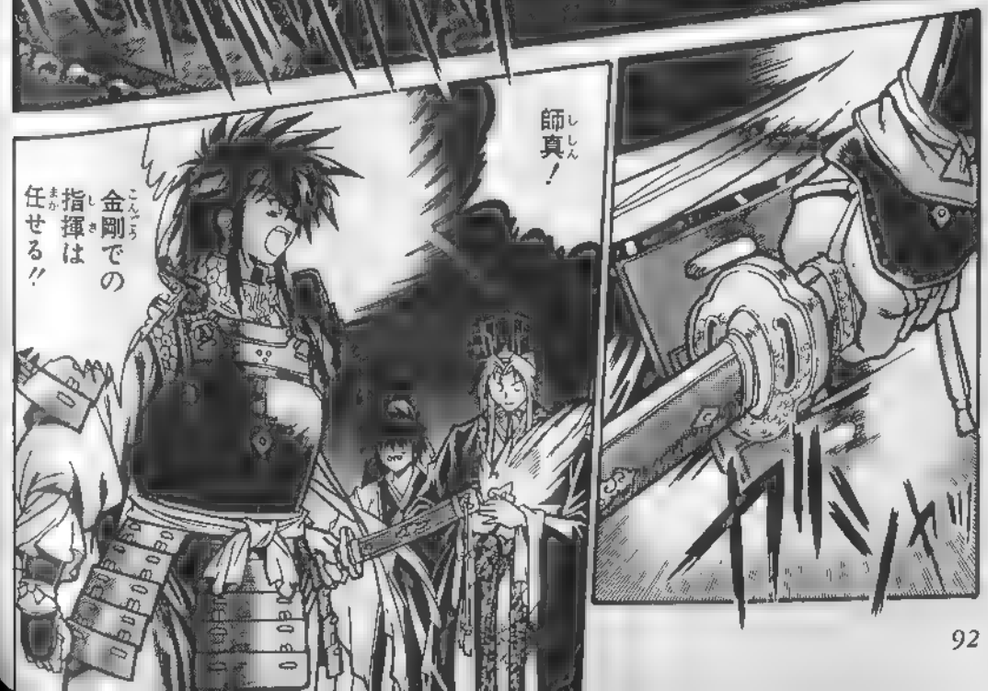

敵の一隊が
前線を突破！
機神に向かいます！
何いっ!!
艦首回頭！
そいつらを
ふき飛ばせ!!
う…
ああっ!!
しょ…将軍！
うわあっ!!

五丈軍が
突っ込んで来ます
先頭に
金剛の姿が！
飛んで火に入る
何とやらだな
竜我!!
くたばれ!!
うわっ!!
きゃあああっ!!
今だ!!
あの砲座に
かませろ!!

撃てぇ――っ!!
ひぃぃぃぃぃぃ!!

こ…これは…?
ぎゃあああっ!!

勝利は
我がものだ!!
続け――っ!!


師真!
金剛での
指揮は
任せる!!

おおっ
金剛が
砲台の一つを
潰したぞ!!
大将に
遅れるな!!
早く
艦を
つけろ
つけろーっ!!

うおりゃあああっ!!
爆雷隊
砲台を吹き飛ばせーっ!!
点火ーっ!!
皆
退がれーっ!!

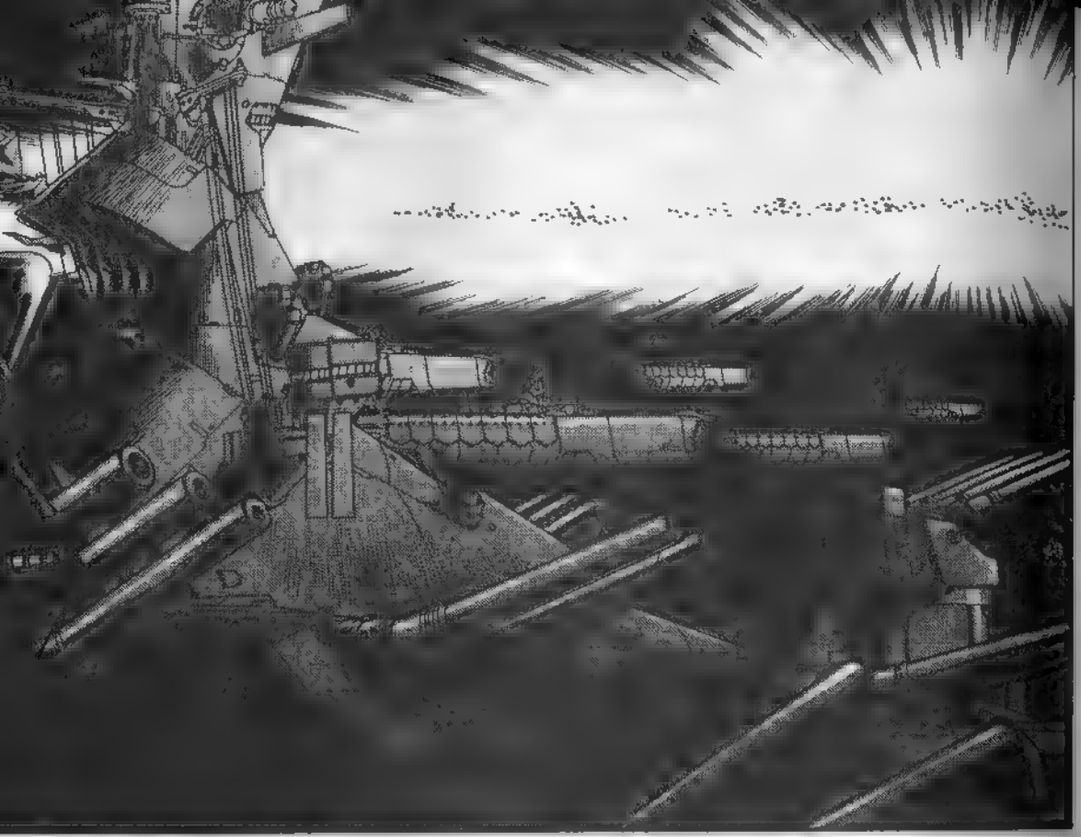
孟起！
姚文
鐘に元
そして
奏公日に
呂末と
五丈軍団の
背骨と称される
猛将達が
精鋭軍と共に
守り崩れ込んで行く！
たが
南天軍も
負けてはいない
広大な機神の
城内を守護するのは
羅候の親衛軍団である

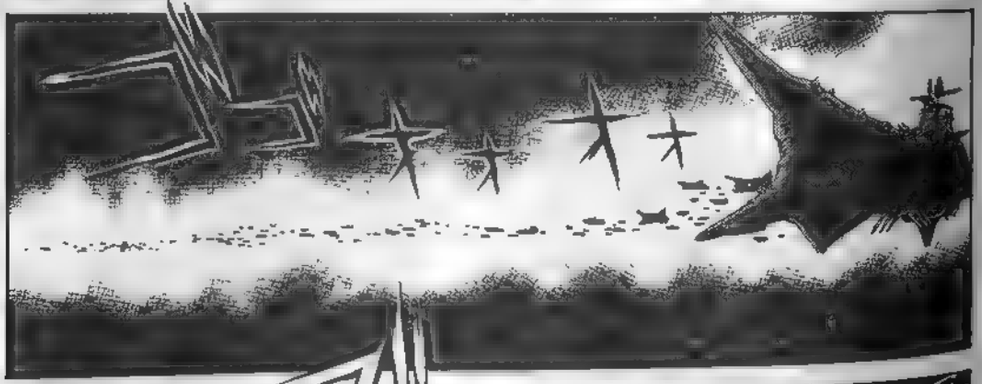
やったぁ!!
ざまぁみやがれ!!
ようし！
大将と
合流するぞ!!
続けーっ!!
金剛の突進による
一撃は
猛砲火に耐えてきた
五丈軍を
気に勢いづかせた。
項武に続いて
護衛隊を
蹴散らし
先を争うかの如く
機神に取りついたのだ

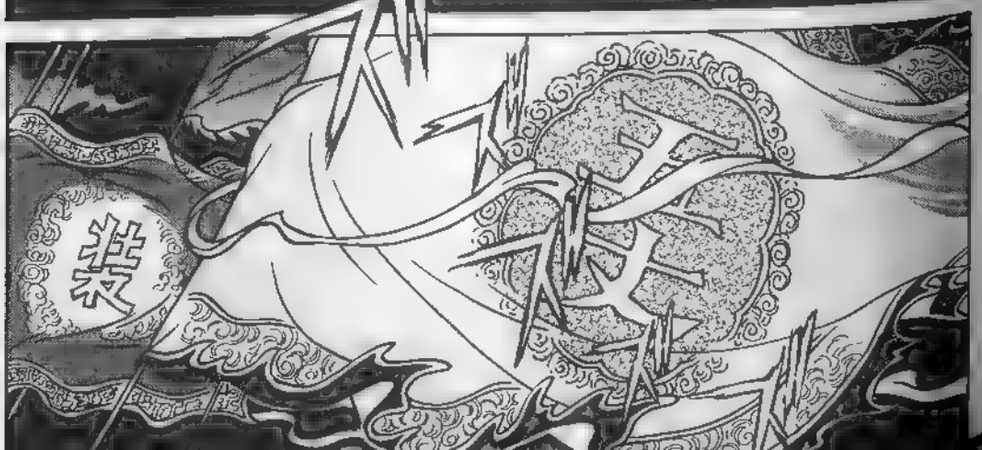
雷！
おう
雲海！

総大将が
無茶をするな!!
わしらに
任せろ!!
見ろ！
味方も
続々
乗り込んで来る！

たちまち
至る所で
白兵戦が
展開された







一方
味方の砲撃に
射すくめられていた
南天軍だが

戦いの中心が
機神城に
移ってから
ようやく
応援に駆け
つけようとした
急げ
殿をお守り
するのだ！

だが
彼らの前に
姿を現したのは…

おおっ！

あれは…!?

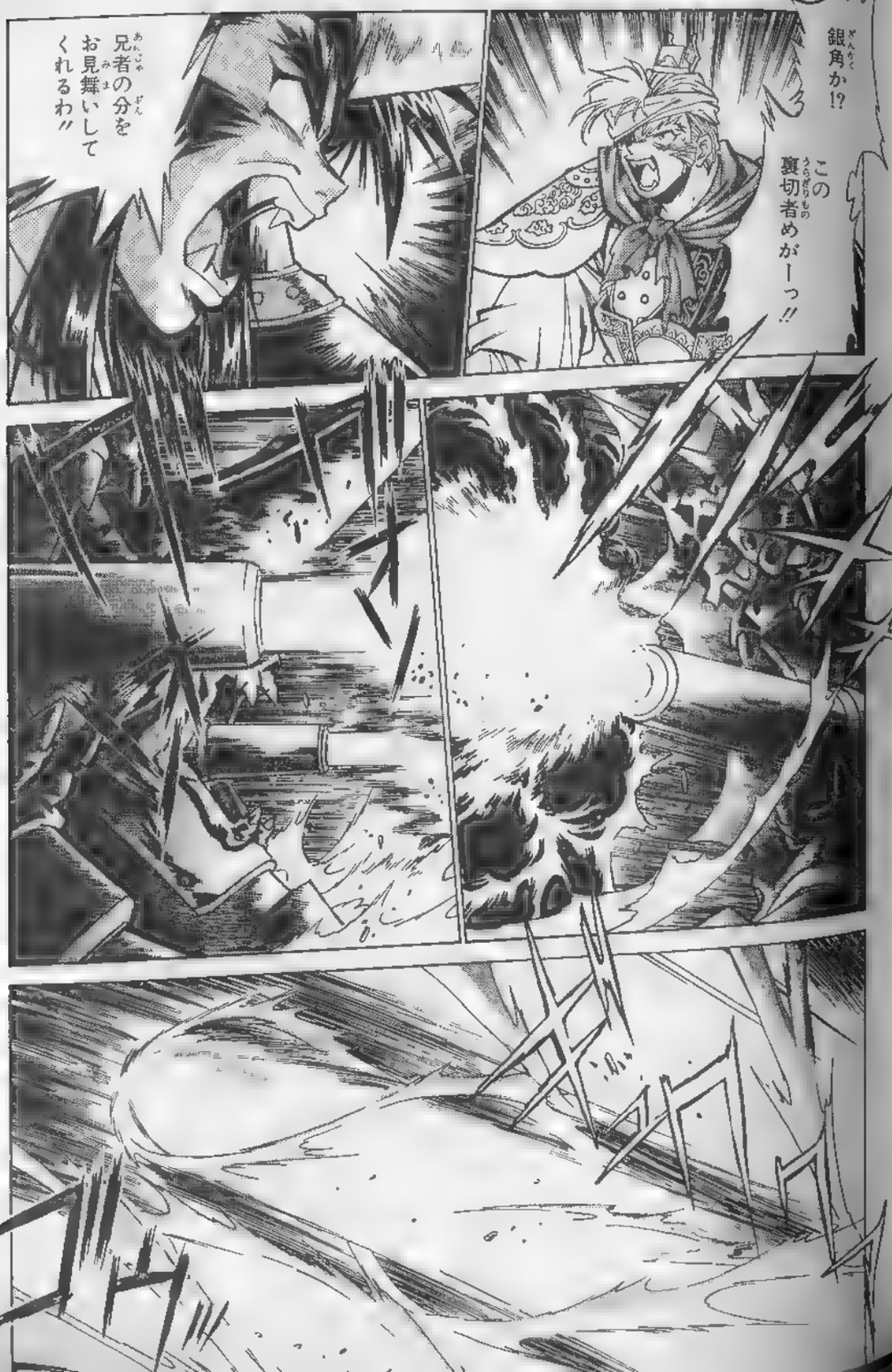
それは
鐘才・装伯に
率いられた
第二陣であった
最後の締め
「竜の陣」の
到着である!!

たちまち南天軍に動揺が走る
げえええっ！敵の増援だ!!
数こそ優ってはいたが六時間に及ぶ激闘と味方からの砲撃を浴び疲れきっていた
その南天軍を休養充分の上決戦での手柄を望む五丈軍が挟撃にかかった
天下分け目の決戦ぞ!!
手柄を立てるのは今じゃ!!

ええいっ
ひるむな!!
退がるなーっ!!

ええい
情けない
やつらめが!!
それでも
南天の武人か!!
羅真義様!!

右前方を
ご覧下さい!!


銀角か!?
この
裏切者めがーっ!!
兄者の分を
お見舞いして
くれるわ!!

おのれ――っ!!
うおおおおーっ!!
わあああ

と…殿…!
……
お…おまえ達
何をしておる!!
すぐさま軍勢を率い
五丈軍を
押し返すのだ
ふふふ
殿…!?
いいじゃねぇか
これで
戦らしい
戦が出来るって
もんだ!

さすがだな
竜我…!
だが
生かしては
帰さん!!
行くぞ!!
殿!!
あたしも!

と…殿と
奥方を
お守りするのだ！
急げーっ!!
ようし
前進だ!!
我が先鋒
左の城郭外周部に
到達！
戦況は
一進一退の模様！
左翼は
内壁に通じる
大門三つを
攻略しました！

羅候だ！
南天王だ!!
きさまら…!!
皆殺しにしてやる!!

攻撃の手を緩めるな！
天守櫓に至る城門に攻撃を集中せよ!!
押せぇ!!
押し込めーっ!!
ええい何をしている！何をひるんでおる!!
う…!!

竜王様
お退がりを!!
敵の一軍が
城門より押し出して
参りました!!
南天王自らが
指揮を取っています!!
どけどけ
どけ――っ!!
竜我は
どこだ――っ!?

うおおっ!!
殿に遅れるなぁっ!!
狙うは竜我の首じゃあっ!!
本陣を固めろ!!
押し返せーっ!!
敵を一兵も通すな!!
邪魔だぁ!!
そこかーっ!!
竜我ぁっ!!

何者だ ささま!!
竜我は どうした!?
竜王様は ささまの 相手などはせぬ!! この雲海入道で 充分じゃ!!
何だとお! ナマグサ坊主めが!!
きさまなんぞに 用はないわ!
すっこんでろ!!
そうは いかぬ!!
このおっ!!

竜王様!!
竜王様ーっ!!
はあっ!!
もうっ
どこ行っちゃったん
ですかーっ!!

はっ!!
何よ
あんた?
え…
えーっと…!
わ…我こそは
ごっ五丈の
楊尚香!!
い…いざ
尋常に
勝負——っ!!
へえ
五丈にも
狼刃以外に
女将が
いるのね
いざっ!!
おもしろい…!

五丈の女か
どんなものか…
相手して
あげるわ!!
あたしの名は
邑峻!!
え?
邑峻って…?
もしかして
南天王の…!?
きゃあっ!!

あっ
あっ
あ—っ!!
他愛ない!!
え?

竜我!!
久しぶりだな奥方…!
竜王様!!
う…っ!!
ら…羅候はね!
あんたなんかに絶対負けないんだから!!
師真がすぐにこの辺りに砲弾の雨を降らす
まて――っ!!
あっ!!
もういいここはヤバイずらかるぞ!
え?
竜王様!
あ…あたしちびりませんでしたよ!
あ――笑ってる!

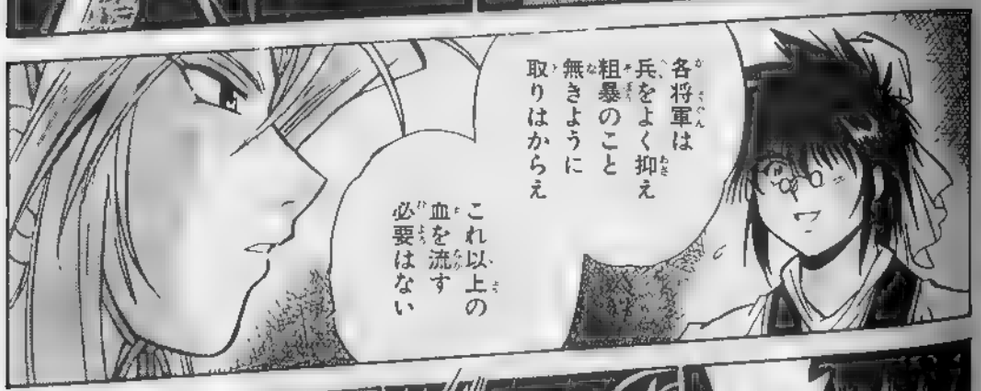
うおおお
うおっ!?

うがあっ!!
ふ…
ふはは
手こずらせやがって…!!
坊主は念仏だけ唱えてりゃいいんだよ!!
く…っ!!
ヒュル
ヒュル
ヒュル
!!

雲海将軍！
さあ
掴まりなされ!!
ぎゃあああっ!!

くそう
竜我！
卑怯だぞ!!

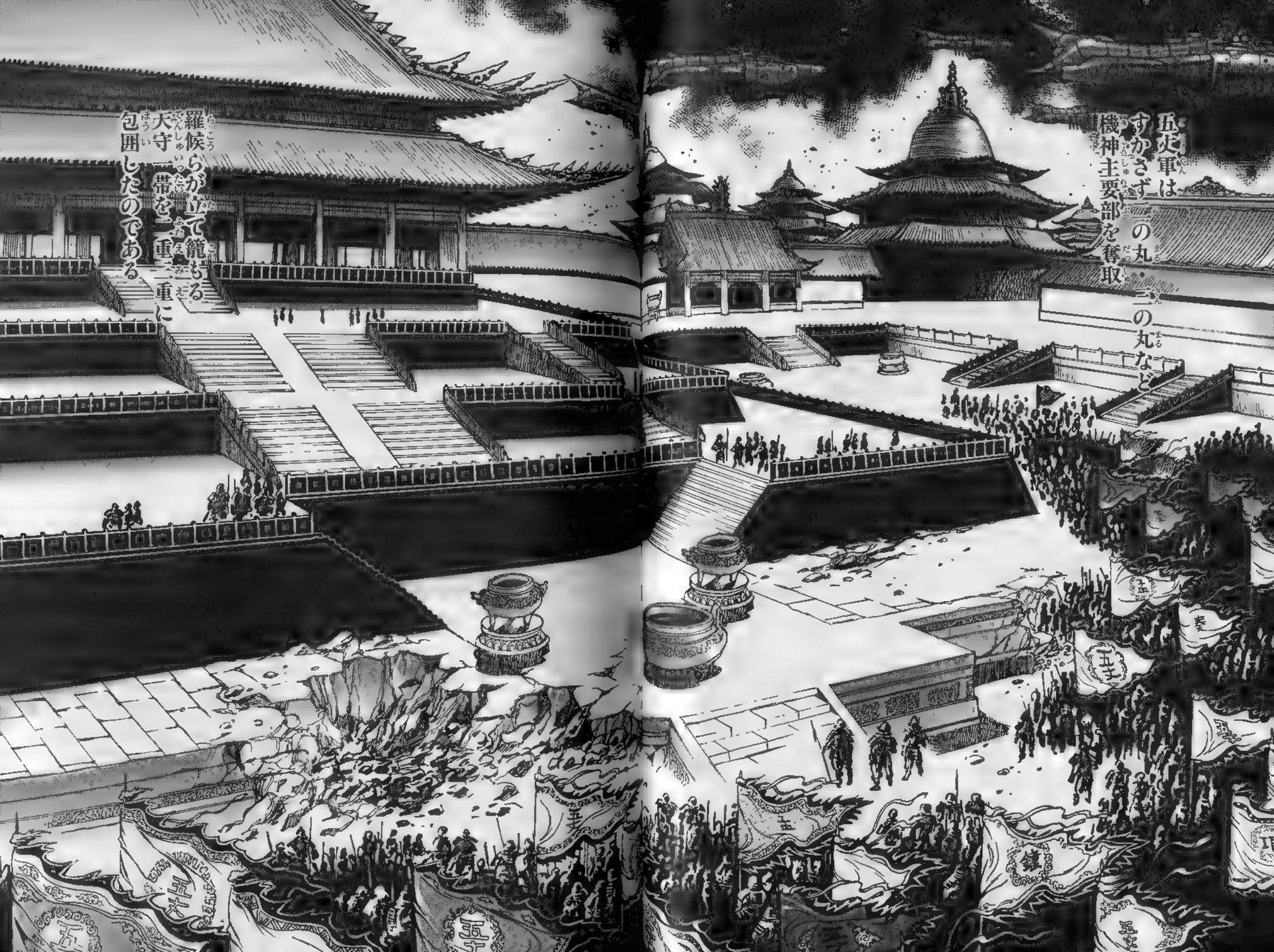
林
はい！
大勢は
決した
各艦に
「免死」の旗を
掲げさせよ


各将軍は
兵をよく抑え
粗暴のこと
無きように
取りはからえ
これ以上の
血を流す
必要はない

はいっ!!
免
「免死」
それは投降すれば
死を免れるという
降伏勧告であった
クク

こうして
城内守備兵は
奮戦虚しく
次々と打ち倒されていった
かくして生き残った将兵は
外郭でい防衛を放棄し
機神中央部の
堅固な天守に
逃げ込むよりほか
なかった

ぬおおっ!!


五丈軍はすかさず一の丸・二の丸など機神主要部を奪取
羅候らが立て籠もる天守一帯を一重二重に包囲したのである

百万か…
我らは？
御一族も
含めまして
六千に満たぬ
数かと…
百万と
六千か…
話にならんな
ふん！
よくもまあ
こんなに
集まったものだ！
はっ
この機神城下に
おいて
百万と見ました

皆も
掛けろ
……
くそっ！
完敗だな…！

味方の軍勢は逃げ去るか降伏するかしている
この機神も大半は五丈に押さえられ蟻の逃げ出す隙もないときた！
ここまで完膚にやられちまうとかえってせいせいするわ！
恐れながら申し上げます!!
何だ 兇興
まだ諦めることはございません…！
まずはここを落ち延び捲土重来を期すべきでございます！
落ち延びるだと…！
はっ！
兵の姿に身をやつしお逃げいただきます!!
……
この場を落ち延びられれば南蛮にはまだ何百万里四方の裕福な地に何億もの人口がありまする！
必ずや再び天下をうかがうことが出来ましょう!!
この兇興殿が脱出なされる間身替わりになる所存!!
きさま！
殿に雑兵にまじって逃げよと申すか！
この無礼者！
そんなに死ぬのが怖いか!!
お黙りなされいっ!!

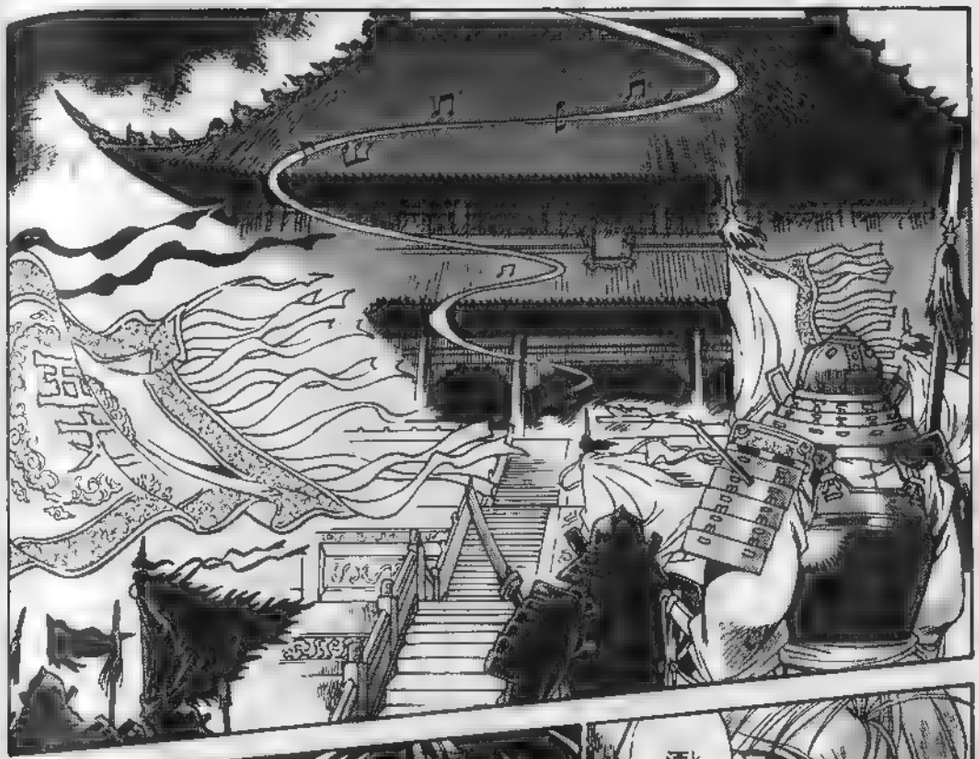
殿！
大事の前の小事に
こだわってはなりませぬ！
誇りを失った王には
誰もついて来ない！
確かに
おまえのいう通り
南天はまだ
戦える力を
持っているやもしれん
だが
軍勢を棄て
身を隠し
一人落ち延びたと
あっては
俺の誇りは
どうなる!?
一刻の猶予も
ございませぬ！
ご決断を…!!
それは
出来ぬ！
と…
殿!!

おまえの
いわんとすること…
姜子昌にも
よくいわれたもんだ
だがな
世の中
理にかなっていれば
良いというものではない
殿…
それが
俺の欠点かも
しれんがな
邑峻！
はい
冗興よ
おまえの忠義を
見込んで
頼みがある
こいつを連れて
五丈の本陣に向かい
竜王に降ってくれ！
はっ
何なりと…！

羅候!!
殿!
いうな!!
おまえは
亡き竜我の妻や
側室とも
親しかったと聞く
だから
竜我も決して
無下な扱いは
せぬだろう
子供のためにも
生きろ!
!!
うっ!!
おいっ
バカなことは
よせ!!
女には誇りが
無いというの!?
夫を棄て
女の付き合いを頼って
敵将の許に
行けですって!!
そんなこと…
そんなこと
出来る訳
ないじゃない!
わたしは
誇り高き
南天王の妻よ!!
ええいっ
聞きわけろ!!
五人の子の
母だということを
忘れたか!!
あの子達は
天下の英雄の子よ!
だからよ!!
その子達に
英雄である夫を
棄てた母親が
どんな顔して
接しろというの!!

それでも
行けって
いうんなら…
いっそ
この場で
殺して!!
五丈

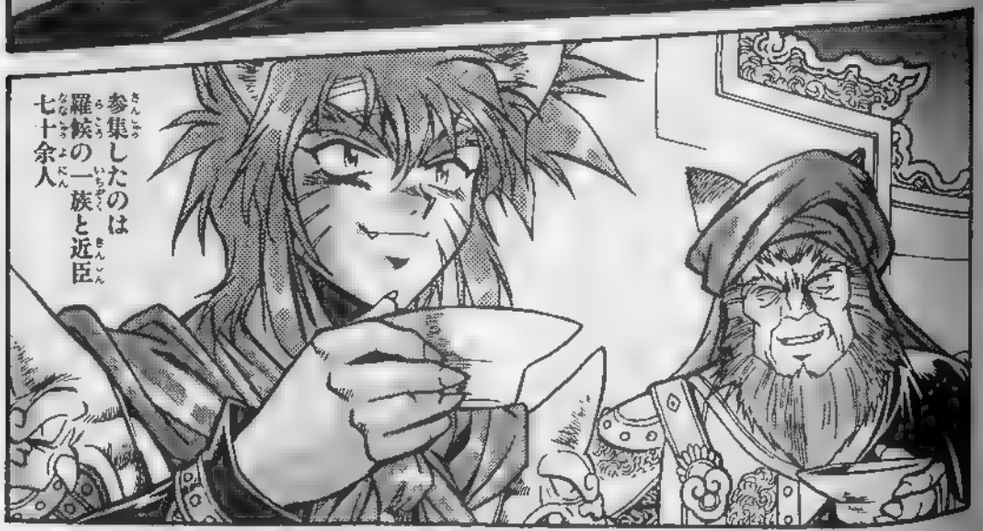
静かですね
羅候は
徹底抗戦の
ハラでしょうか?
いや…
これは
籠城では
あるまい
羅候と
奴の一族…
そして
彼らに殉ずる
将兵に対して
荘厳な
死に場所を
用意するために
立て籠もって
いるのだ
これは…
楽の音…



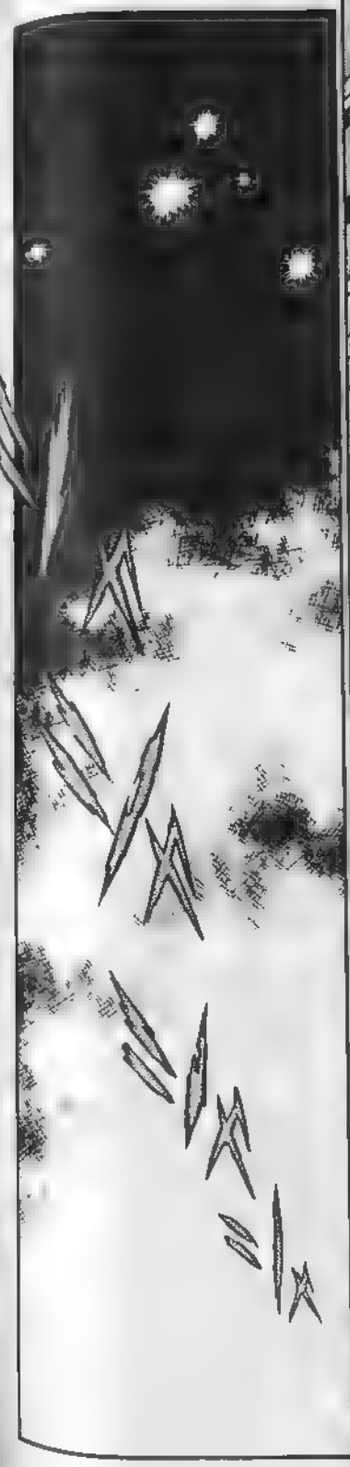
酒宴か…
……

うはっはっは

それは
決別の宴であり
死を目前にした
男達自らを送る
葬送の宴であった


参集したのは
羅候の一族と近臣
七十余人

来たか…！
五丈軍
槍隊を前に
四方より
押し寄せて
参ります!!



雒陵の長・邑峻は
自ら剣舞を舞い
宴を盛り上げたという

殿！
御武運を!!
殿！
お先に参ります!!
お先に!!
おうっ!!
五丈の兵がなんぼのもんじゃい！
今こそ南天武士の心意気を見せてくれるわ!!
わあああ!!

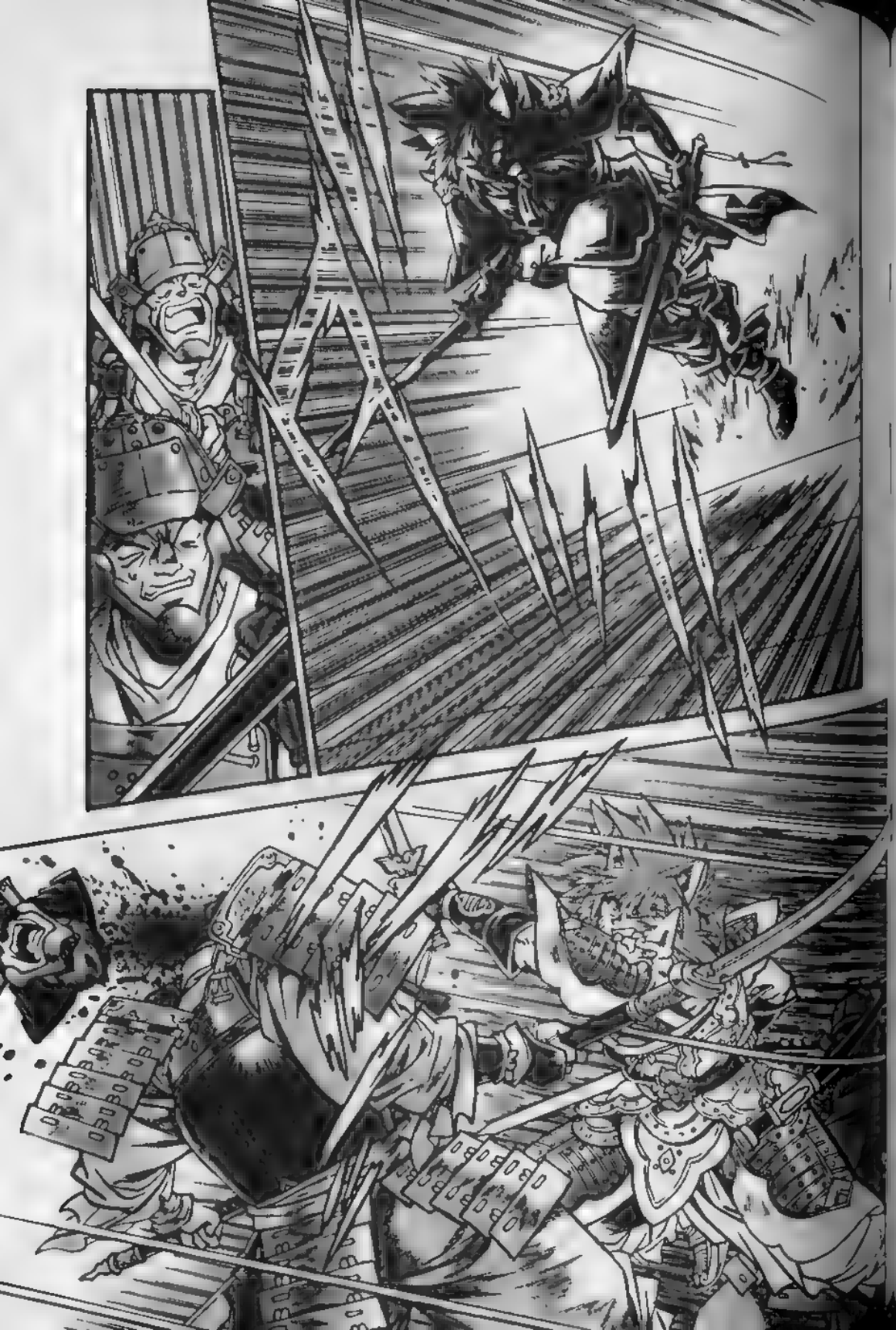
あ…
あの子達は…
大丈夫…よ…
きっと
強く…生きて…
くれる…
だって…
あなたと…
わたしの…
子…だも…の…

昌峻…
何も
いわないで…
南天王
羅候の妻で
あったことを
誇りに思ってます…!!
そうか…
許せ!

呂峻…
必ず
おまえの魂を
父母の眠る
南蛮王都の地に
連れて帰ってやるからな…
羅幕敖！
はっ
お側に
控えております
後のことは
任せる！
はっ
万事
怠りなく…！

殿…
御存分に
戦いなされ！
おうっ！

おおっ
羅候だぞ！
南天王だ!!
!!
ぬ…ぬう…っ!!



な…
何をしておる!!
敵の総大将だぞ!!
討ち取れば
天下第一の功だ!!
かかれ
かかれーっ!!
うおおっ!!

おまえに…
一太刀浴びせるまでは…！
死ねん!!

竜我(りゅうが)!!

俺がこの手で…!!
てめえの身体を
切り刻んで
豚としてやる!!
そう思ってた

項武
孟起
士元
姚文
公旦
各々二千の兵を率いて龐統を迎え討て
ははっ!!
龐統!
俺が相手だ!!
おうようやく大将らしいのが出て来たな!
ぬおおっ!!
項武替われ!!
この龐士元が相手する!!
一人二人は面倒だ!
束になってかかって来い!まとめて相手してやる!

一騎当千という
一策があるように
羅候は
五丈の誇る五人の大将を
次々と蹴散らし
邪魔すんな!!
ぐっ
逃がすな!

ぶっ…!!

それぞれの副将が
率いる一万余の兵士の
半数を斬り伏せたのである
うおおおっ
何という
奴よ…!!
!!
この地響は
何だ!!
うわあっ!!
城郭が
崩壊します!!
崩れるぞ!
逃げろーっ!!

危険だ！
全軍艦に戻れ!!
うわぁっ

待て
竜我!!
逃げるな
てめえら!!
勝負しろ!!
竜我〜〜っ!!

城が
崩れるぞ!!
早く
艦を寄せろ!!

竜王様
お急ぎを!!
待ていっ!!

竜王様!!
雷!!
はっはっはっ!!
逃がしはしねぇぞ竜我!!
この城のように旧き時代は亡びる!!
だがそいつは次の時代の幕開けってわけだ!!
新しき時代の覇者が誰になるか…!!
今ここで決着をつけてやる!
俺にかまうな!先に行け!!
おのれーっ!!
うおっと…!!
竜王様!!
きゃあっ!!

羅候!!
竜我!!!

見ろ！
城が…
城が崩れていく!!

戦国の風雲児
竜我雷!!
この時 二十九歳
そして
南天の覇者
羅候 二十七歳
この二人が
刃を交えた
十年間を
人は
「竜虎の時代」と
呼んだ!!

竜王様!!
いずこにおられますか!?
りゅ…

崩壊が収まったぞ!!
艦を揃けろ!
急げ!!
大将
生きてて
くだせえよ!!
陛下!
竜王様

その瞬間、
辺りは異様な
何か押しつぶされそうな
静寂に支配されていた
総司、
一つがあげた
歓喜の勝ちどき
聞こえなかった
ただ聞こえるのは
風になびく
軍旗のはためく
音だけである
一の顔には
満悦の表情はなく
幽鬼の如く
その場に
ただすくむのみであった
しかし
これだけは
彼らにも
分かっていた
五

今
全銀河が統一されたのだと…!!
南天王羅候の死は
百年余り続いた
戦乱の時代の終結を
何よりも強く
語っていた

目をそらすな！
よおく見ておけ
これが戦での勝者と敗者の姿だ

俺と羅候の間に正義だ不正義だなんてものはないあるのは勝ち残ったものと散ったものだけだ
俺達を分けたのは何だったのか…

俺が羅候に勝っていたとは思ってはいない
兵力でも知略でもない何かが俺達の運命をこう分け隔てたんだ…
師真
はい…

これが一代の英雄の末路だなんて…
戦国の世とはいえ余りに痛ましすぎる…！
強かったな…

陛下…

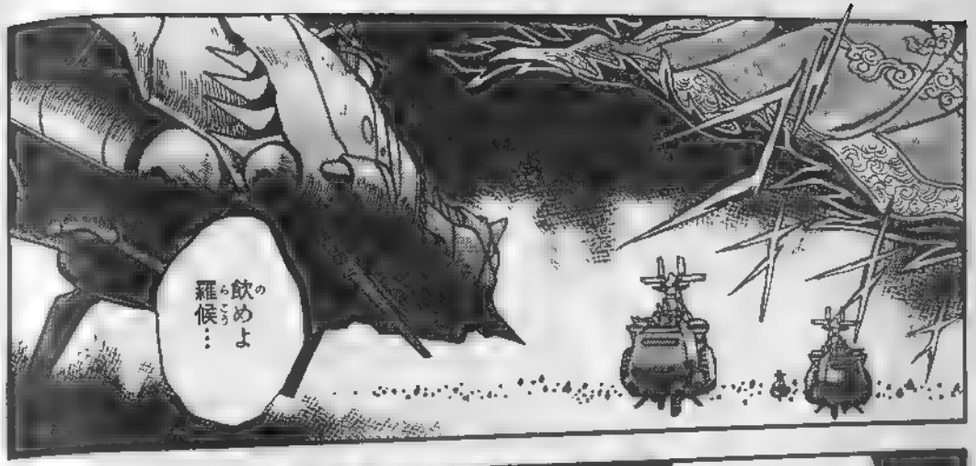
強い男だった…
強くて勇気があった覇者に相応しい男だった…

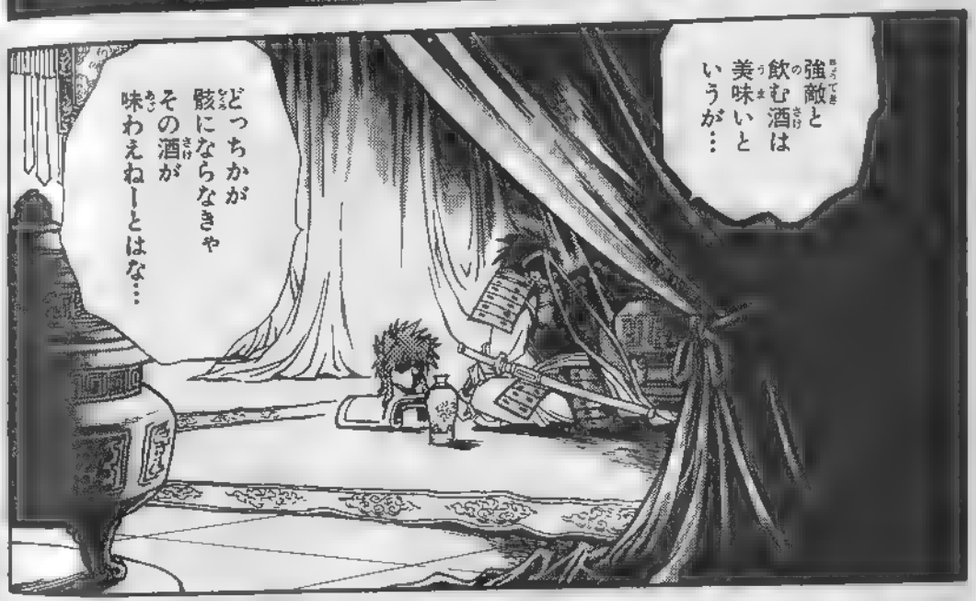
羅候の死体を
王侯の待遇で葬り
近くに廟を建ててやってくれ
はっ
……
これぐらいのことしか俺にはしてやれん！
それと棺は北に…五丈に向けてな
かしこまりました
南天王に相応しきものと心得ます
申し上げます!!
南蛮王都に進駐した部隊より南天王の遺児を捕えたとの報告が入りました!!

南天王の…！
羅候の子か…!?
確かか？
はっ！母方の貴人の一人にかくまわれて脱出しようとするところでした！
それでその…
いかがいたしましょう？
何分幼子でございますが…
子は五人だったな
はっ皆男子でございます！
陛下あの…

殺せ！
聞こえなかったのか！
は…
ははーっ!!
ただちに！
あ…
虎の子は
虎だ!!
それが
五人ともなれば
例え俺でも
敵うまい…
わかるな！
はい…

皆
しばらく
俺と羅候
二人だけに
してくれないか
少し
羅候と
話がしたい…
はい…
竜王様
酒か…
気がきくな
それでは
ごゆっくり…


飲めよ羅候…


強敵と飲む酒は美味いというが…
どっちかが骸にならなきゃその酒が味わえねーとはな…

俺はおまえに勝った…
だが何なんだこの感覚は？
何にも満たされてねえぜ
空っぽだ…
どうしてなんだ？

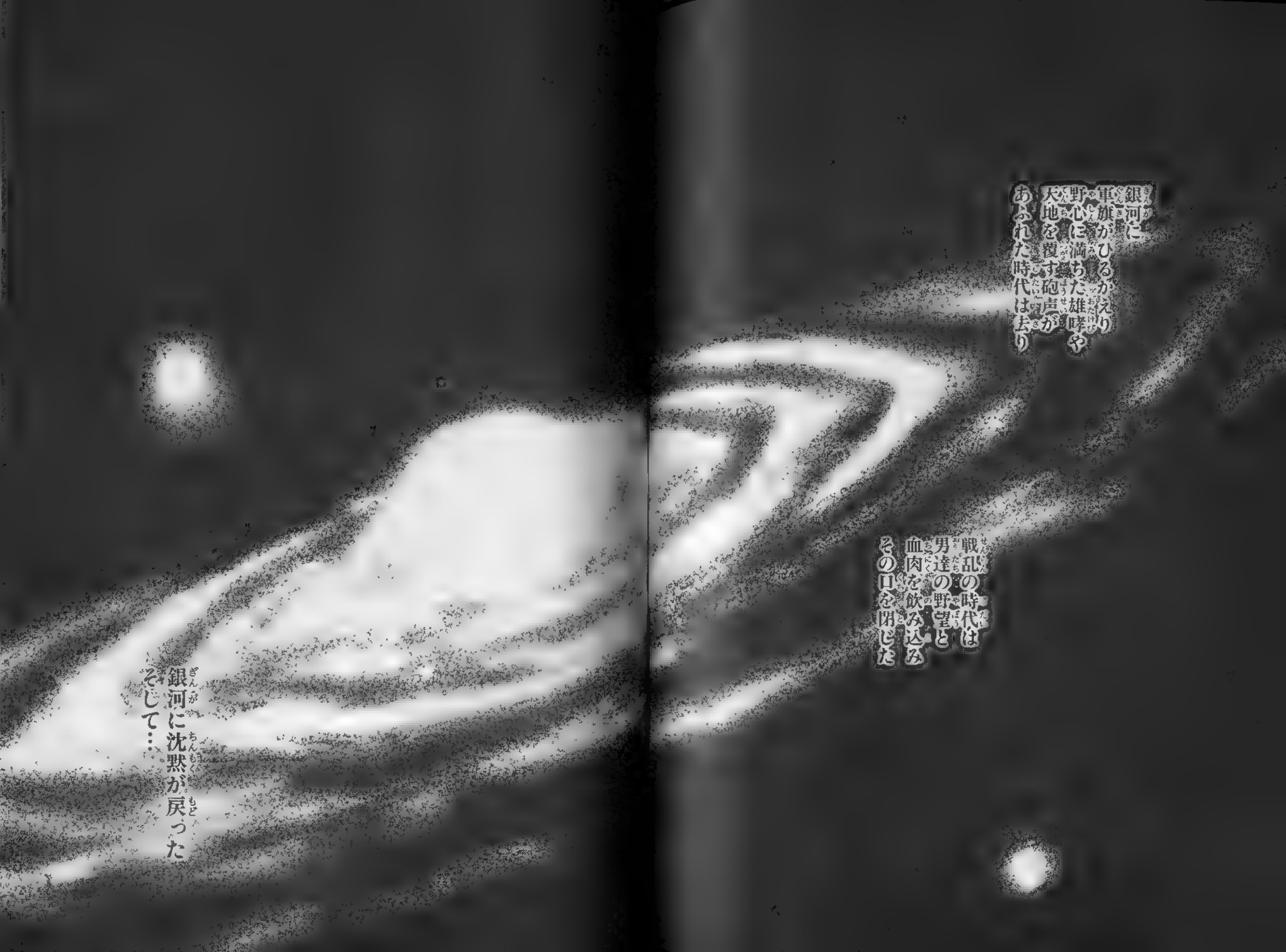
俺は戦うことしか知らぬ男だ
戦って戦って戦い抜いて生きてきた

戦うには相手が必要だ
骸羅…狼刃元帥…
独眼竜正宗…
秦宮括…
そしておまえ…
勝者は戦い続けなくてはいけないと元帥はいったが…

俺はこれから何と戦えばいいのだ…？

勝ち逃げは
許さねえぞ！
竜我!!
何と戦えば
いいだと？
俺は
おまえとの決着が
ついたとは思ってねぇぞ!!
羅候…
確かに
今日は
一歩引いてやる!!
だがな！
てめえが
ボサッとしてたら
俺はいつでも甦って
てめえの天下なんざ
ひっくり返して
やるからな!!
だからな！
てめえには
ボーッとしてる
暇なんか
ねえんだよ!!
そうか…
そうだな…
おまえの
いう通りだ…！
俺の戦いは
終わらん…!!

こうして
一年近くに及ぶ
五丈の南征は
南天全土の平定を
持って終了
五丈軍は
静かに全軍を
引き揚げた
今や
五丈・南天王国に
二分されていた
銀河は無く
代わって
新銀河帝国が
誕生しようとしていた


銀河に
軍旗がひるがえり
野心に満ちた雄哮や
大地を覆す砲声が
あふれた時代は去り
戦乱の時代は
男達の野望と
血肉を飲み込み
その口を閉じた
銀河に沈黙が戻った
そして…

何で
もっと早く
起こしてくれないの！
ミーミー
起こしたわよー
何度もー
早く寝れば
良かったのよー
明け方近くまで
起きてたでしょ
御即位儀式宝典の
おさらいを
やってたんですよ
一年半も
時間をかけて
準備したのに
式典長たる
わたしが遅刻したら
何と陛下に
お詫びすれば…
あーもう
間に合わないよ!!
グス

もうっ
時計を
いつも一時
進ませてるの
忘れたの
え？
あ…
そうか…
そうでした…
もうしっかり
してよ！
左丞相に
なったばかりでしょ
師真様と同格なんだから
もっと
堂々と
しなきゃ！
……
そんなぁ
丞相位なんて
身に余り過ぎて
ひっくり返り
そうなんだよ
丞相位どころか
太子様の傅役まで
仰せつかったんでしょ
将来
太子様の代には
宰相間違いなし
じゃない！
バカ
いわないで
大傅役だって
師真様の方が
相応しいと
辞退申し上げたんですよ
じゃあ
師真様も
断ったの？
現に——
師真様は
知恵が余り過ぎるって
陛下がおっしゃってね——
恐れ多いことだけど
太子に慈悲と
寛容の精神を
教えるのは
おまえしかないって
そこまで
おっしゃられては…
長年に渡る
戦続きの世の中に
銀河全体が傷ついてます
恨み辛みも多いでしょう
それらを
慈悲と寛容の心で
ふわっと優しく
包んでやれるようにと
太子様をお諭し
差し上げれれば…
武の統治から
心の統治に
移行できれば
帝国は
安泰するはず
なんですけどね！

はい
余裕もできたし
お茶をどうぞ
カチャ
ありがとう
それにしても
もう三年なんだねー
ほんと
色々あったなー
でもまだまだ…
陛下の進められる
南北同化の
統一事業は
これからです
そういえば
最近都でも
南天人を
よく見かけるわ
もうすぐ
科挙試験が
実施されるんですよ
科挙試験？
中央から地方までの
全ての役人を
決める試験だよ
南北出身を
問わず広く
人材を得ようと
思ってね
陛下の
お考えを
受けた上で
師真様が
考案なされたんだ
南天かー
どんな所か
一度行って
みたいなー
たくさんの
植民都市が
建設されてますから
ずいぶん昔と
変わったと思うよ
移住した男達が
南天の女の人を
お嫁さんにすれば
いいんだけどね
それも
南北同化の
統一事業？
ある意味
ではね
じゃあ
項武将軍の
とこなんか
理想的な
家庭って
ことね——
それは
どうだか…
この浮気ものーっ!!
ちょ…
ちょい待て!
誤解だってば!!
問答無用!!

戦場じゃ母ちゃんには負けなかったんだぞ！
なっ!!
いっとくけどな父ちゃんは五丈一の将軍なんだぞ！
覚えとけ！
あーらどうだったかしらねー
けど大将軍にはなれなかったのよねー
う…っ！
あ…ああいうのはいいんだ！
俺の性には合わねぇの！
正直公旦殿の大将軍就任には驚かされたよ
キラ星の如く大将がいる五丈軍の中で五丈に滅ぼされた国の将軍を大将軍に抜擢したわけですから…
勝ち負けは関係ない…ここにも陛下の統一への想いを感じましたよ

何で懐から簪なんか出てくるんだよ！
誰にやるつもりだったのさ!!この浮気者!!
ぐえっ！降参降参!!
え？
自分の生まれた日も忘れたのかよ！
あ…そーなの？
あははは
母ちゃん腹へったよ——
めし——
あ——ハイハイ今行くよ
こらっそれだけか!!
なくにがチュッだ
何が！
父ちゃんケンカ弱いなー
何いっ!!

雲を得て
龍は天に舞い上がったか…
え？
雲の役目は
終わったと
いうことだ
官位を
棄てるつもりなの
どの道
俺は遠ざけ
られる
天を舞う龍に
まとわりつく
雲は邪魔なだけだ

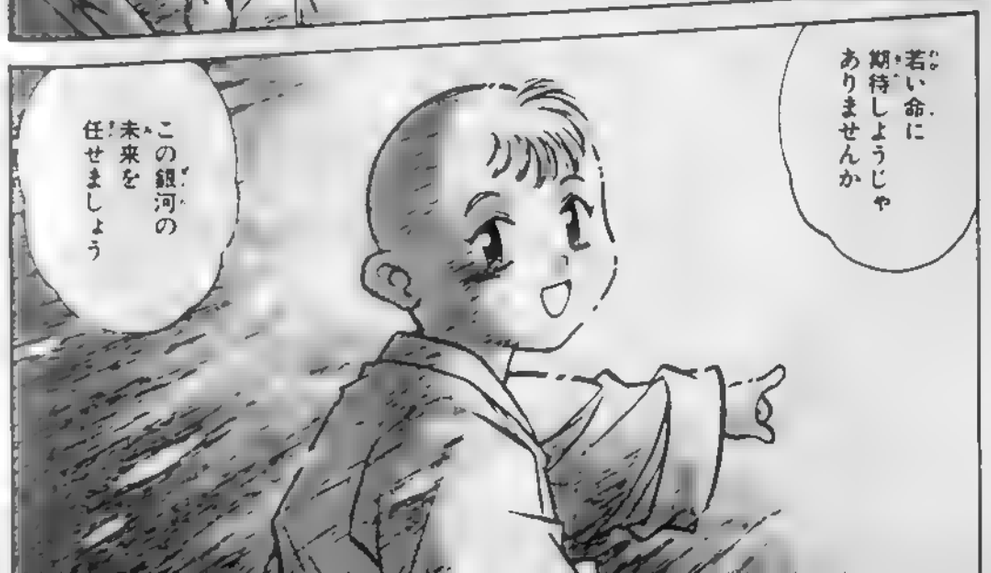
そう…
はは
心配するな！
こういう処世術も
腕の見せ所だ!!
別段
官職も権勢も
欲しかったわけじゃ
ないしな！
ま
辞めるのは
いいとして…
バカいえ
誰が
んなことすっかよ
そう
願うわよ
お父さん！
お父さんって…
俺は
え!?
又
女好きの
遊び人に戻るとか
いうんじゃ
ないでしょうね

詳しくは式典から帰って来てからね
お…おいちょっと待てって
本当かおい!!
初耳だぞ!!
太助よ…あの雷がよ皇帝になっちまったぜ
登りつめる所まで登って行っちまったよあいつはな…!
わしか?
この身体じゃ軍務も無理だしな
雷は色々気遣ってくれたが
元来将軍ってのも何だしなぁ
雲海将軍なんて聞いたらおまえ大笑いするだろ
それでなわしは銀河の隅隅まで歩いて雷の成し遂げた銀河統一ってやつをこの目で見てこようと思う
十年…いや二十年はかかるだろうな
そっちに行ったらその時の話を聞かせてやるよ
それまで達者でな…!

それでは
はるばる
五丈の都から…
左様…
戦も終わった
ことだし
老人の気ままな
一人旅ですじゃ
お祖父様
お客様ですか？
おじいちゃん
おお
麟
五丈のちりめん問屋の
御隠居様じゃ
まあ
五丈の！
そのお齢では
船旅も
大変でした
でしょうに
ホッホッホッ
まぁ年寄りの
冷や水という
ところじゃな
ほう
なかなか
利発そうな
お子さんじゃのう
名は
何という？
ん？
えいしん…
父親の名を
そのまま
いただいたんです
名を？
するとこの子の父親は…
はい…
先の戦で…
そうか…
多くの者が
命を失ったからのう…
いや余計なことを
聞いた
スマンのう…
いいんです
あの人は
この子のための
時代を作ろうとして
命を失ったの
ですから

時に
安康十一年
月某日…

今 皇帝に
なろうとしている人とも
想いは同じだと
思います
高い
代償じゃ…
このわずかな
平穏を得るため
とはいえ…
その手にした平穏を
未来永劫
続けることが
生き残った者の
務めじゃろうて


若い命に
期待しようじゃ
ありませんか
この銀河の
未来を
任せましょう

斉王都南に
築かれた
太極台の周りは
色とりどりの
軍団旗と帥団旗に
埋められ

完全武装の出立で
持つ槍先まで
緑を引いた様に
整列した精兵
七十万

正装礼服をまとい
威儀を正した
文武諸百官

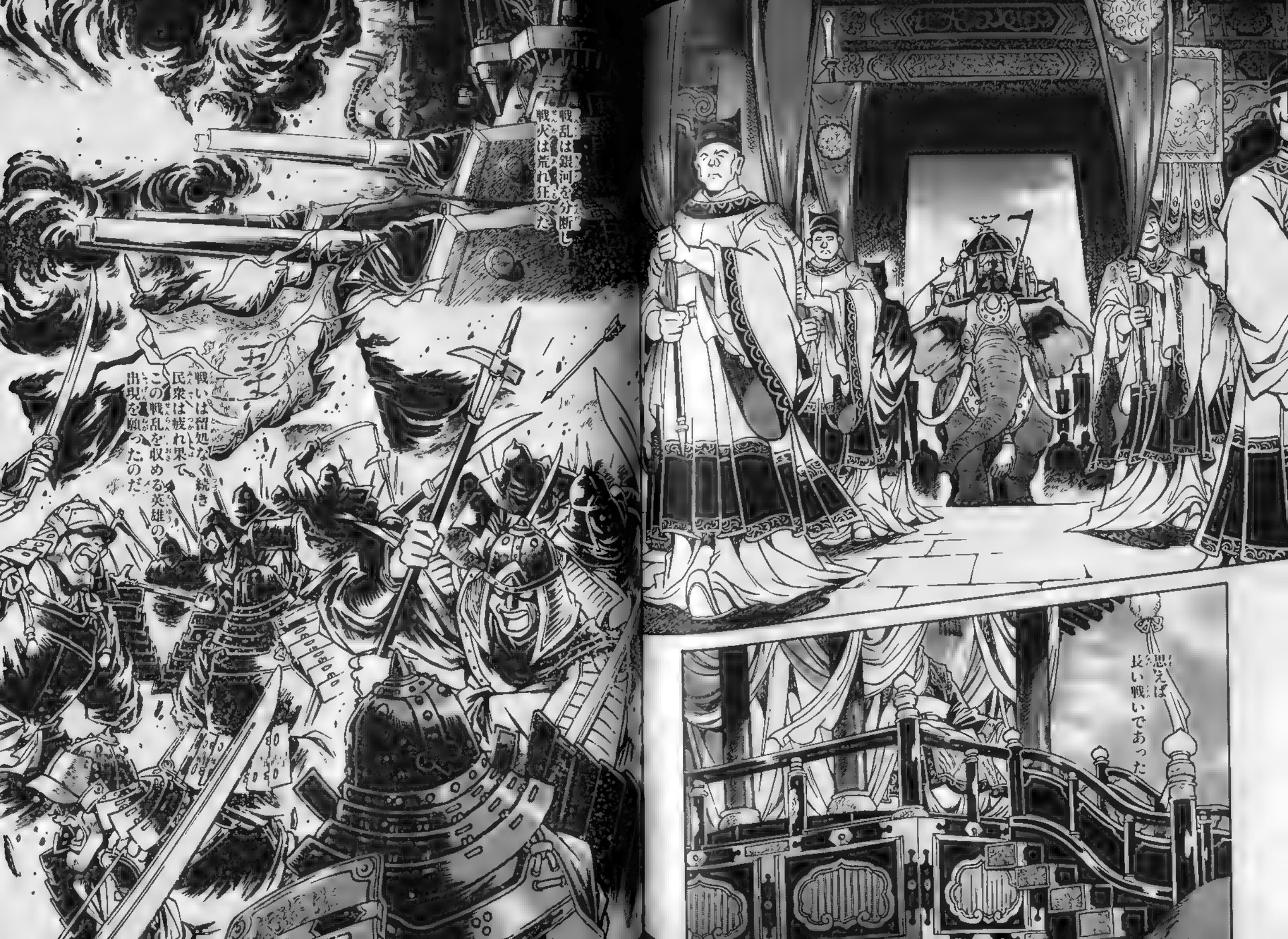
また
南蛮その他の
諸部族の王侯・族長らも
様々に着飾った装飾で
色どりを添え

また
皇妃・睡蓮
太子・梵天丸を筆頭に
帝の一族が厳粛さの中に
華やかさを漂わせながら

来たる皇帝の
登場を待った

ちょっと綺羅ちゃん
ゴホン
どうだった？陛下との半年もの南方巡遊は!?
へっへっへ——
陛下を半年も一人占めできたんだもん夢みたいですぅぅぅ
あそう!!
兄様の廟にも参って来ました
ふぅぅぅぅぅん南天王は自分の妹がかつての敵の許にあることに何かいってなかった？
大丈夫ですよ陛下とのお子が出来れば兄様の血も天下人として残るんですもの
いっとくけどねお世継ぎには順番ってものがあるのよ
その通りや
お世継ぎはもう決まってるんやで！
！
この太子・梵天丸がただ一人陛下がお認めになったお世継ぎや！
なっ梵天丸！
はい 母上
梵天丸は必ず父上の偉業を継いで参ります
あーら…
けど松寿丸にも可能性がないわけでもありませんわ——

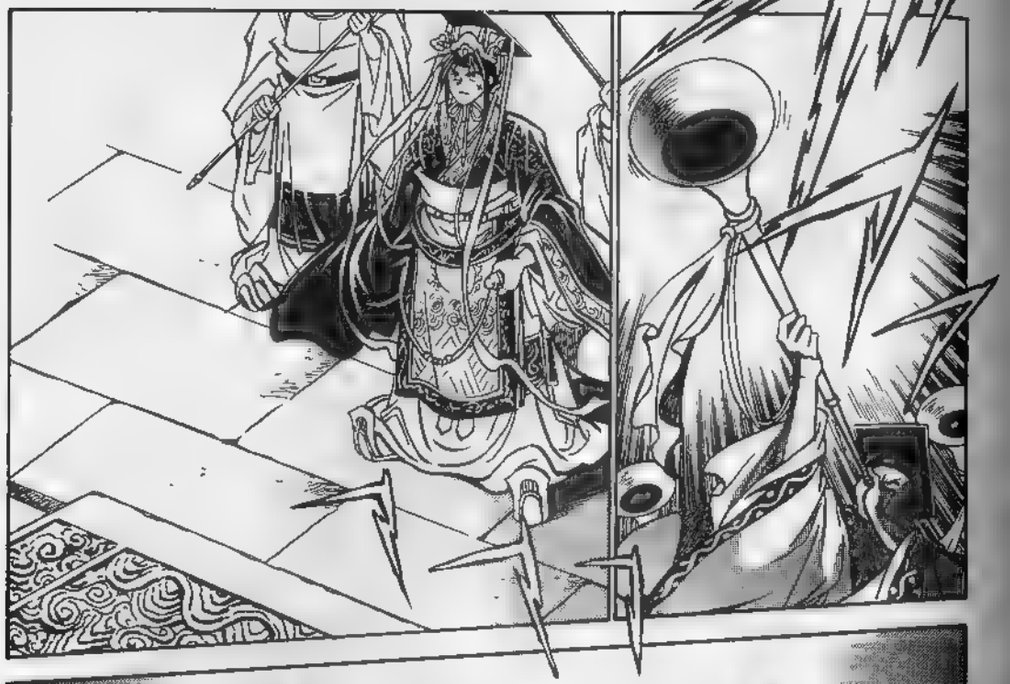
世の中
何があるか
わかりませんし…
何やて!!
うわっ
ふん!
そーいうつもりかい
この女狐か…!
色気えて
愛親むと
申しますわ


戦乱は銀河を分断し
戦火は荒れ狂った
十年
戦いは留処なく続き
民衆は被れ果て
この戦乱を収める英雄の
出現を願ったのだ
思えば
長い戦いであった

それぞれが
英雄の名を
我がものとするために
己の全知全能を使い
挑んだのだ
ハイッ！
毘沙門天王・比紀弾正
西光王・桑宮悟
そして
南天王・羅妖
独眼竜王・

そして今…
勝ち抜いた一人の男が頂点を極めようとする…！
並みいる強豪を打ち倒し全銀河を掌握した ただ一人の勝利者！
竜我雷
その人である…!!

紫紋…
見とるか？
雷は
あんたとの
約束を守ったんや…
偉い男やで
ホンマ…



うう…

何だよ 士元 泣くなよ

バカ野郎 これが泣かずにいられるか…！

それにしてもよ 南京楼の太守の折に さらりと「天下を取る」なんて おっしゃってよう それを 本当に実現 させちまうんだからよう

俺やぁ 男として生まれて これほど良かったと 思ったことないぜ！

孟閭や 項焉にも 見せてやりたかったなぁ

いえ きっと見てますよ

父も

親父もな！

皆
感謝しているぞ
俺が今あるのも
おまえ達の
おかげだ

特に師真
よく
俺を導いて
くれた!
おまえ
無くして
俺の天下は
なかった!!

俺は天駆ける
龍!
そして
おまえは
雲だった
雲無くしては
龍といえども
池の底に
身を潜めている他
なかったろう

雲の役目…
終わったものと
心得ています

だが必ず新しい雲が湧き上がって来るのだ
雲は
いずこからか
湧きよせ
又いずこへか
消えてゆく
一つの雲を
永く留めておく
ことはできない
いつかは消えるものです
集合離散して行く
雲でしょう

天子の雲は
消えても
かまわぬが…
俺の将棋の
相手は
これからも必要だろ？
はい…
さあ
参るぞ!!
はは っ!!
ゴゴゴゴ
おおっ！
何じゃ
あの雲は…
たちまち
空を
覆い尽くしたぞ
オオオ

ヒョオオオ

ヒョオオオ
ゴゴゴゴゴゴゴゴ
こ…これは一体…!?
あの時と同じじゃ！
骸羅が天子を僭称した時と…！
ガ

天が
人を裁くことなど
出来ぬ!!
ただ
勝者を
賛えるのみだ!

ふ…
天はおまえに
取って替わろうとする
不埒な男を
許さぬか?
皆の者
聞けいっ!!

皇帝って？

皇帝とは
天地をつらぬく
支配者という
意味があるんだよ

人間の最高位じゃなく
銀河や大自然
全てを支配する
絶対者…

神君と呼ばれる
所以だ

竜我雷
天下を併呑し
皇帝に即位

初代皇帝として
新都・天極に都を開き
ここに大五丈帝国が
誕生したのである

銀河戦国群雄伝

ライ

男達が
最も強く光り輝いた
偉大かつ峻烈な
戦国時代は
ここに幕を閉じた

銀河は
新たな時代に
入ったのである

完

あとがき

「スペースオペラが描きたい！」

コレが『電撃コミックガオ！』の前身である『コミックコンプ』から連載の依頼を頂いた時の最初の想いでした。遥かに広がる大銀河を巨大な宇宙戦艦が、怒濤のように航行し、ヒーロー・ヒロイン、そして獣人異星人が闊歩する、愛と夢と冒険心に満ちた混沌とした世界…、そんなモノが描きたかったのです。同様のコンセプトで数年前に他誌で、『アウトランダーズ』という作品をやりましたが、未だ描き足りなくて、いつかアレを越える壮大なストーリーを描いてやろうと思っていました。だから連載の話があった時は正に渡りに船でした。

さてと連載準備に取り掛かった折に、丁度ＮＨＫで大河ドラマをやっていました。それを見た瞬間、

「何だ日本の甲冑も格好いいじゃん」

この一言が、『銀河戦国群雄伝ライ』を生み出したのでした。しかし、その時はこの作品がまさか十二年も続くことになろうとは、夢にも思っていませんでした。

連載が始まってからは、もう苦労苦労の連続でした。戦国銀河モノとしたのに、悲しいかな技術や表現力がついていきません。正直甘く見ていました。しかも、やり方を間違っていたのです。それは、戦国モノ、中華モノ、スペースオペラを融合させようとしたことでした。自分の才能ではこれらの要素をくっつけ合わせて融合し、新しいモノを作ることが出来なかったのです。それぞれが中途半端に混ざり合い、出来たモノはろくでもない代物ばかり…、私は、この成形不良を起こしたストーリーと、画力に困惑してしまいました。

ところが悶々と次の話をどうするか苦しんでいた時、とある事が頭の中に浮かんだのでした。融合を止めたのです。戦国モノ、中華モノ、スペースオペラモノを無理矢理一つにするのを止めて、お互い独立して成長させることにしたのです。その一つ一つの要素に接点を見いだすことを止めて、丸ごと一つの大きな袋に入れるが如く、同時に存在させることにしたのです。この決断が十二年間もの長期連載を乗り切れた最大の要因だったのです。コレに気づいてからは、そりゃ楽しかったですよ。自分で描いていて、これほどまでに楽しくなった作品は余りありません。宇宙の中で火攻め、水攻めはほんの序の口、月は落とすは、船の上を象が走り回るわ、甲板に落とし穴掘るわ、とやりたい放題出来ました。コレを最初のように融合を目指していたら、とても宇宙の中で、水をせき止めることなど出来ません。しかし、水攻めという戦国の一戦法と、宇宙というＳＦ的な背景を融合させなければ、不可能が可能になるわけです。平たく言えば、開き直り、もう少し格好良く言えば、自分で作っていた常識論の壁を無くしてしまったということでしょう。

十二年間も長きに渡って連載をしていると色々と弊害も出てきました。一番の問題は、作者自身が冷徹に徹し切れなかったことでした。雷自身に君主たる者冷徹であれと言わせているのに、何のことはない作者本人がそれを全う出来なかったのです。それはキャラクター達に思い入れが強くなり、彼らに都合が良いようにストーリーを作ってしまったのでした。歴史はその時代に生きている人間に対して残酷な演出家となります。どんなに才能が溢れて、人に好かれた好人物でも、歴史は決してその人間に相応しい人生を保証してくれません。歴史を動かすかの如くの大豪傑があっさり病で死んでしまったり、両雄最大のライバルの戦いが意外と凡戦だったりと…。そこには人知を越

Dengeki Comics

銀河戦国群雄伝ライ㉗

2001年12月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館 電話03-5281-5214(編集)

発売元　株式会社角川書店　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話03-3238-8605(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社　カバー印刷　第一美術印刷株式会社

©JOJI MANABE 2001

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

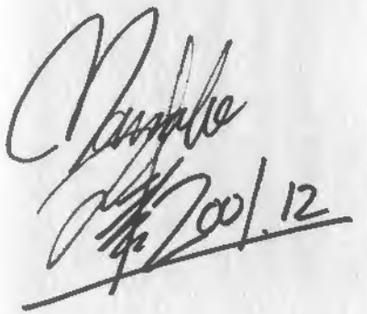
落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！ 2001年6月号～11月号(メディアワークス刊)

ISBN4-8402-2017-4 C0979

えた演出があるように思われます。一方、擬似歴史を描く私は人間ですので、格好いい人間にはそれに相応しい人生を、美しい人間にはやはり美しくあれと考えてしまいがちです。ましてやキャラクターに情が移ってしまってからは、どうしてもキャラ可愛さ余りに…になってしまいます。売れっ子スターに汚れ役をやれとは言えない、だめな演出家でした。この点については大いに反省し、次の作品に活かせられたらなぁと思っています。

最後に、少年漫画は読者に夢を持たせるモノだと言われています。この夢とは何でしょうか？ それは読んでくれている読者の皆さんに、この漫画に描かれている世界に行っても良いなぁっと思わせることでしょう。行って、このキャラクター達に会いたい…そう皆さんが思ってくれれば成功です。雷の世界は残酷な戦争の世界です。男達が自分の野心のみで生きていく世界です。この長い話をここまで読んで頂いた読者の皆さんは雷の世界に行きたいと思ってくれたでしょうか？



真鍋譲治

銀河の覇権を賭けた
大長編戦国絵巻、ここに完結!!

銀河戦国群雄伝

ライ

真鍋譲治

Dengeki Comics

『銀河戦国群雄伝ライ』全27巻 好評発売中!!

A5判 価格:本体893～930円+税 発行●メディアワークス